

豊岡市大交流ビジョン

〈資料編〉

2019年3月

1

観光に関するマクロ環境（世界情勢・国内情勢）

2

豊岡市の動態と観光産業の位置付け

3

大交流の推進戦略

4

大交流ビジョンの目標数値

5

大交流ビジョンの実現に向けて

6

参考資料

- 2017年の世界全体の海外旅行者数（国際観光客到着数）は前年より8,300万人増の13.2億人を記録した。2009年のリーマンショック以降、国際観光収入と共に増加傾向にある。
- 2030年には、18.1億人まで増えることが予測されている。

図1 世界全体の国際観光客到着数・国際観光収入

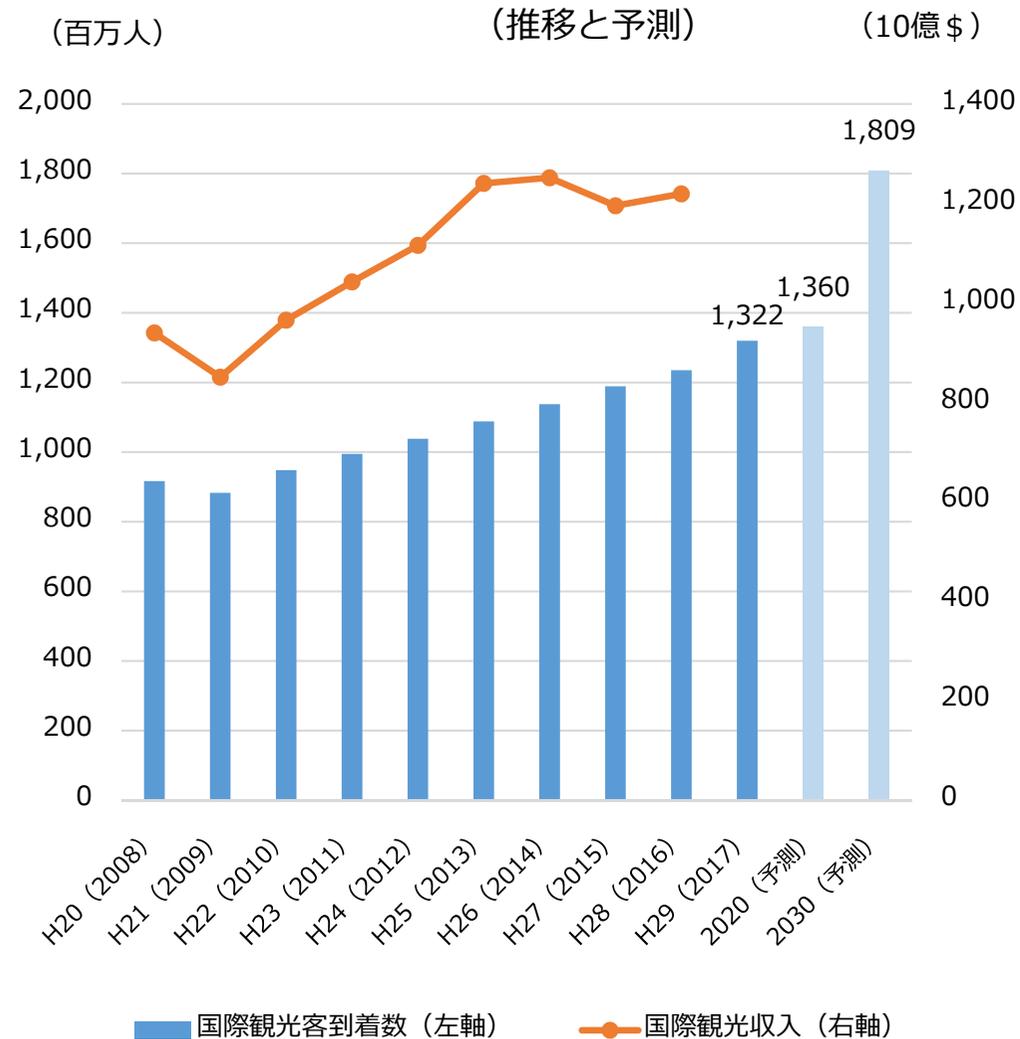
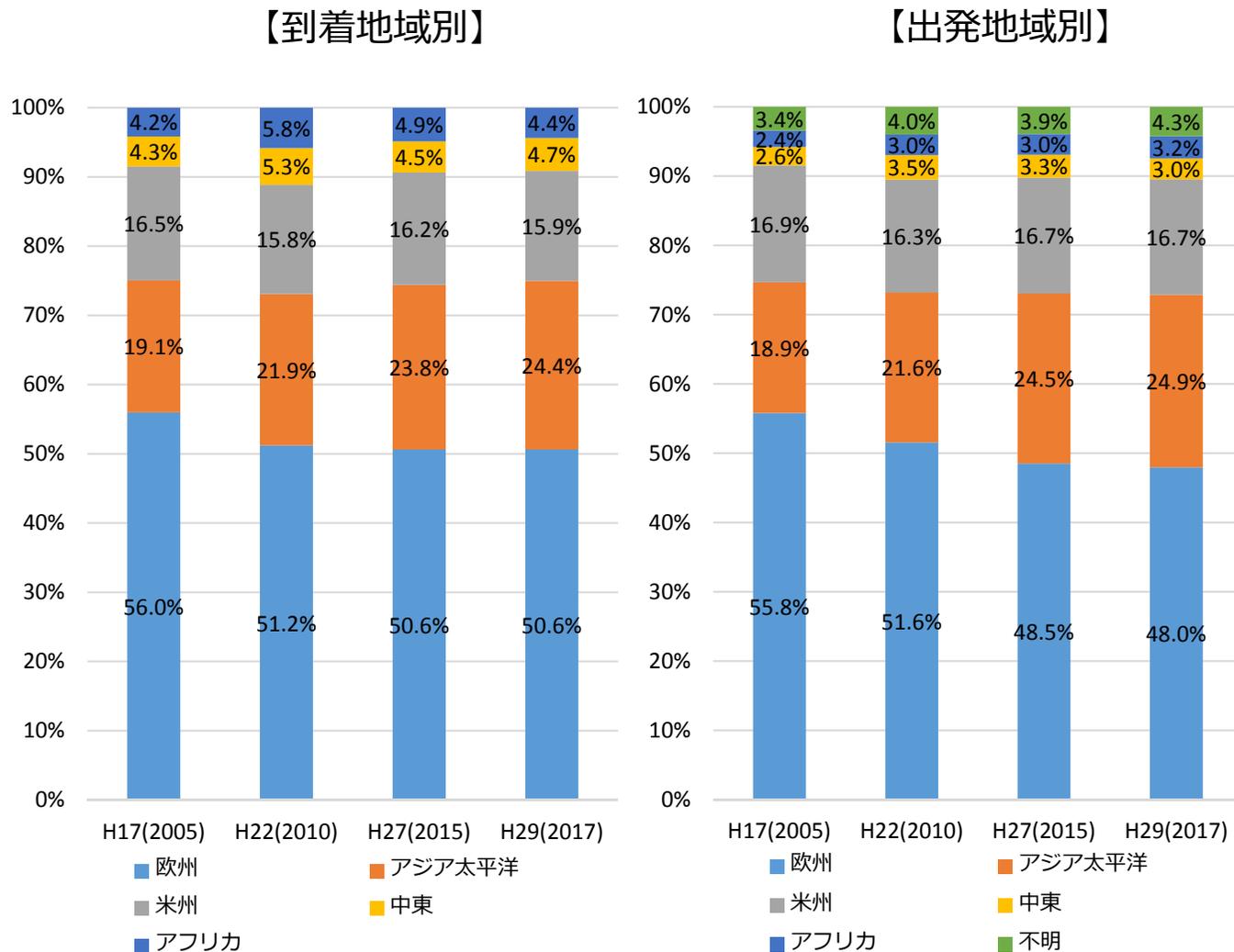


図2 地域別の国際観光客到着数 H29 (2017)

	国際観光客到着数 (単位：千人)	対前年増減数 (単位：千人)
世界全体	1,322,000	83,000
欧州	671,100	51,800
アジア太平洋	323,700	17,900
米州	206,600	5,800
アフリカ	62,100	4,500
中東	58,300	2,700

- 国際観光客数の地域別シェアは、欧州の占める比率が高く、依然として大きなマーケットである。近年、アジア太平洋地域が大幅な成長傾向にあり、注目されている。（図1）
- 旅行・観光産業は2017年において最も成長率の高い産業セクターであり、世界的に見て、観光による経済成長が期待されている。（図2）

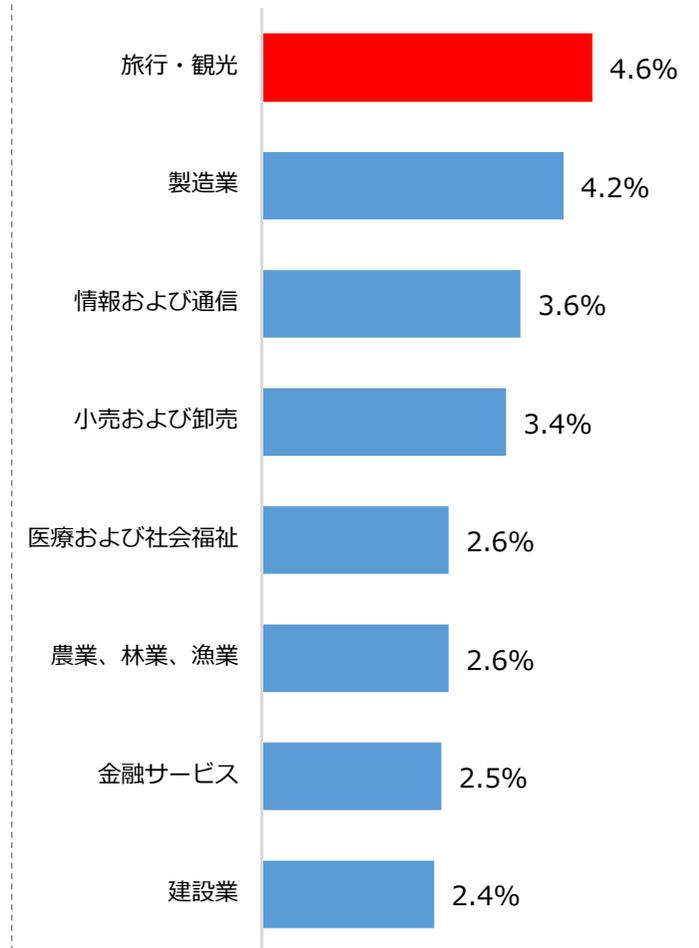
図1 国際観光客数の地域別シェア



出典：世界観光機構（UNWTO）「UNWTO Tourism Highlights 2018 Edition」

世界の産業セクター別GDP成長率 H29（2017）

図2



出典：世界旅行ツーリズム協議会（WTTC）調査

- 2017年の訪日外国人旅行者数は前年比19.3%増の2,869万人。
(2018年の速報値では、前年比8.7%増の3,119万人となった)
国は訪日外国人旅行者数の目標値を2020年に4,000万人、2030年に6,000万人と設定している。(図1)
- 国別地域別の内訳を見ると韓国、中国、台湾、香港などの東アジアからの訪日客が74.2%を占めている。(図2)

図1 訪日外国人旅行者数の推移 (単位：万人)

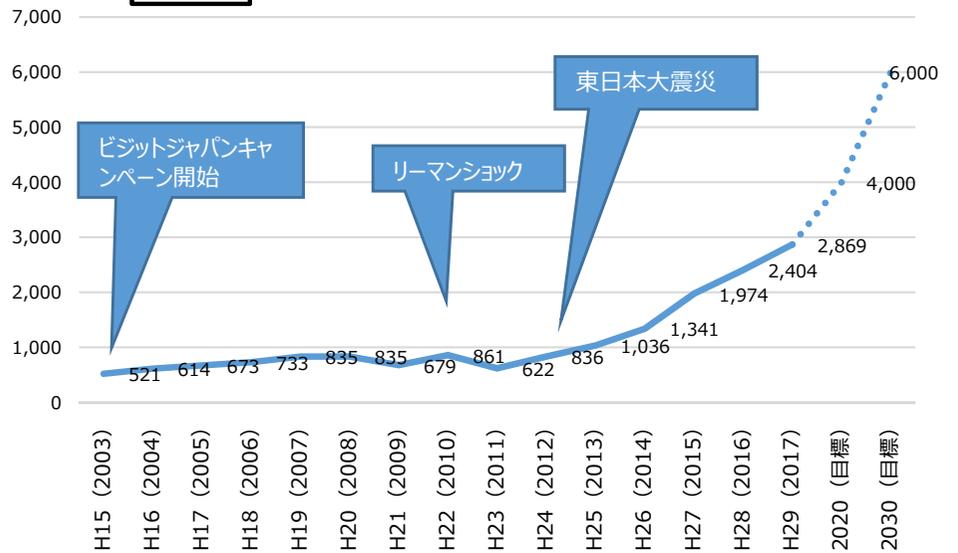


図2 訪日外国人旅行者の国別地域別内訳 H29 (2017)

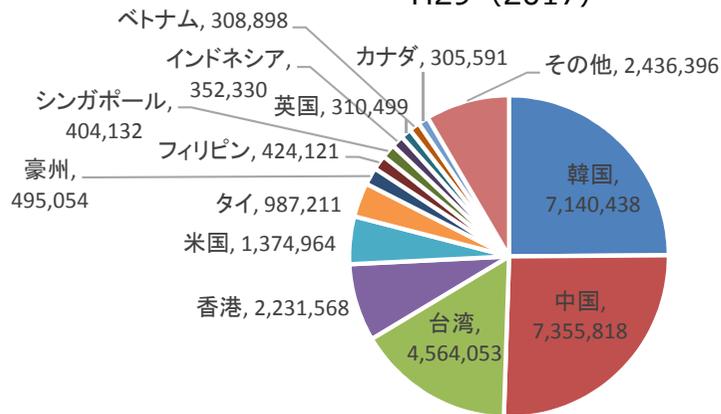
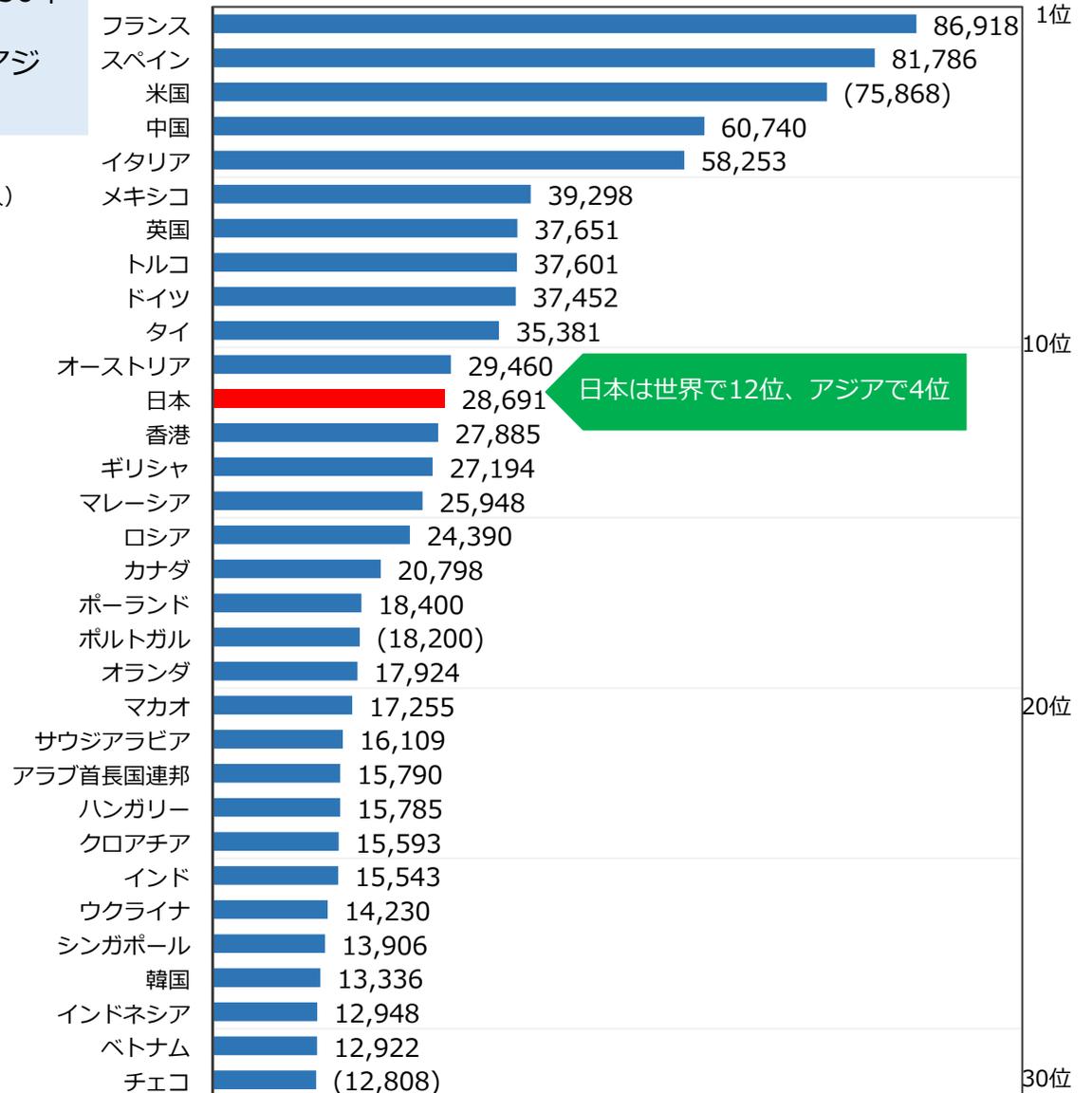


図3 世界各国・地域への外国人訪問者数 上位30位 H29 (2017) (単位：千人)



出典：世界観光機関 (UNWTO)、日本政府観光局 (JNTO)
 注意：【図3】2018年8月時点の暫定値 国毎の統計基準に注意
 米国、ポルトガル、チェコは2017年の数値が不明であるため2016年の数値を採用

- 2016年の訪日外国人旅行消費額は自動車、化学製品に次ぐ規模であり、外貨を稼ぐ主要産業に位置づけられている。（図1）
- 同様に日本の各産業の経済規模においても観光産業は大きな経済規模を誇っており、今後、さらなる訪日外国人旅行者拡大による経済成長が期待される。（図2）

図1 H28（2016）訪日外国人旅行消費額と製品別輸出額との比較

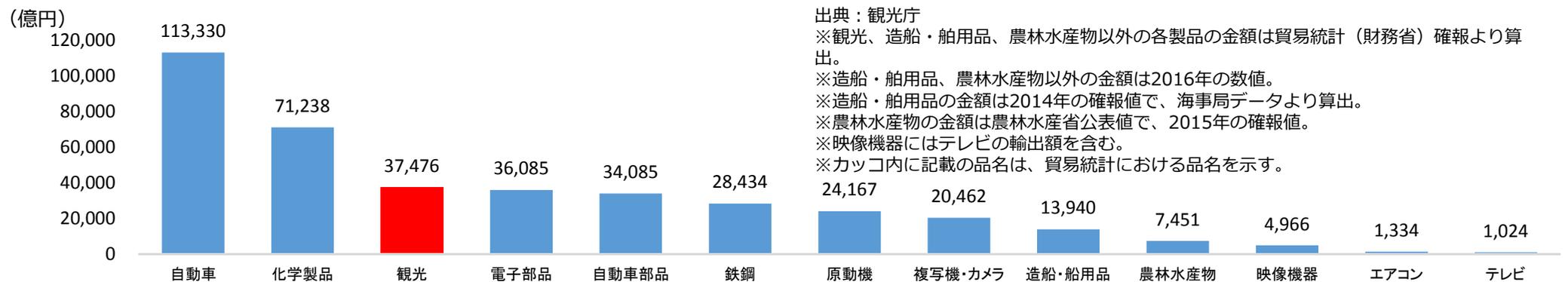
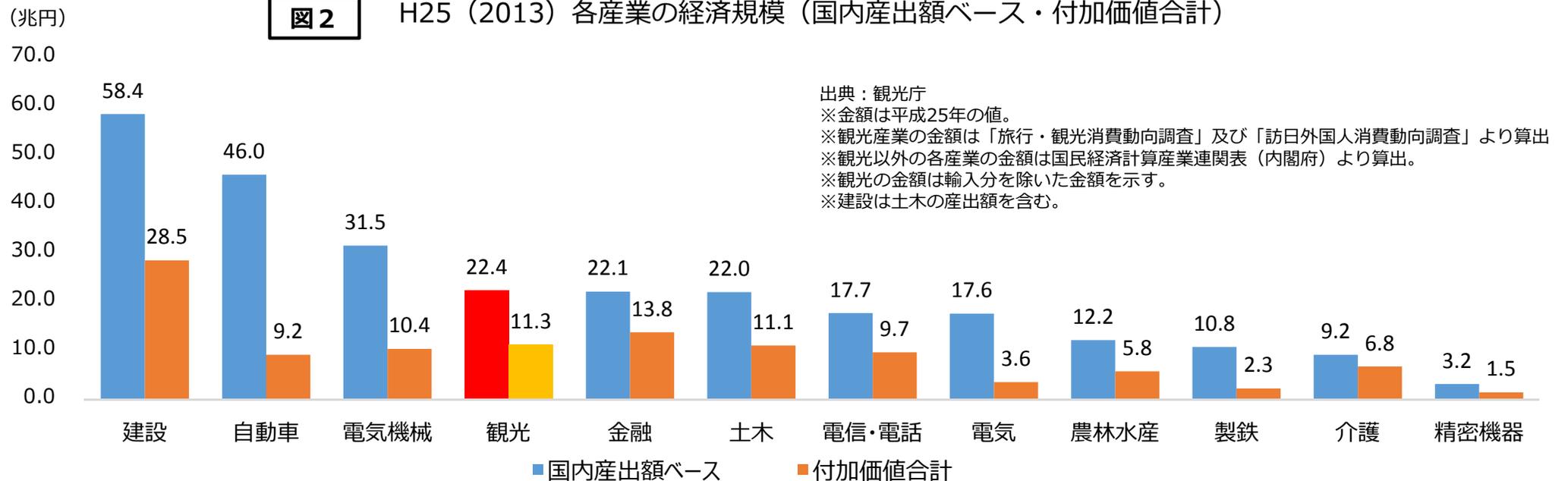


図2 H25（2013）各産業の経済規模（国内産出額ベース・付加価値合計）



- 日本人による国内観光需要は、最近10年は横ばいで推移しており、2017年には、国民1人当たりの国内宿泊観光旅行の回数は1.4回、国民1人当たりの国内宿泊観光旅行の宿泊数は2.3泊となった。（図1、図2）
- 国内旅行者による観光消費額は国内観光需要の傾向と同様に横ばいの中、2017年の訪日外国人旅行消費額は、前年比17.8%増の4兆4,162億円となり、過去最高となった。（図3）

図1 国内宿泊観光旅行及び日帰り旅行延べ人数の推移（万人）

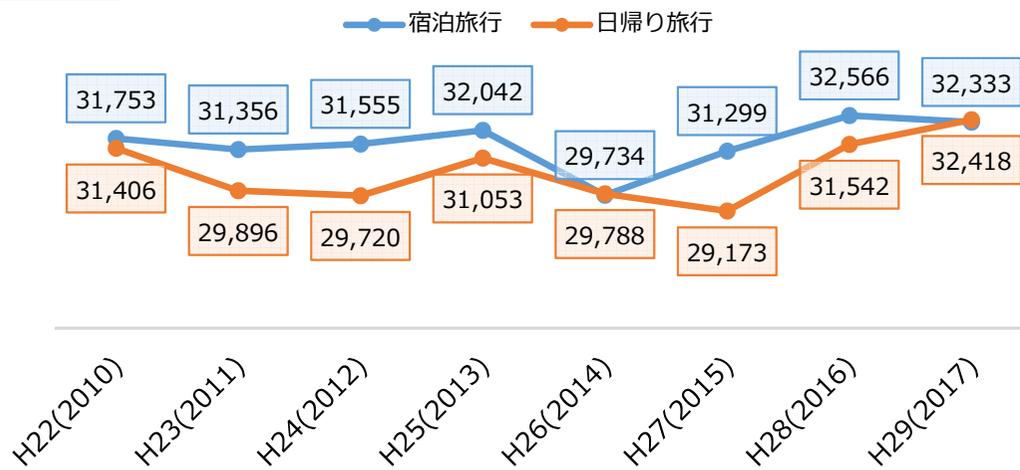


図3 国内における観光消費額の推移（兆円）

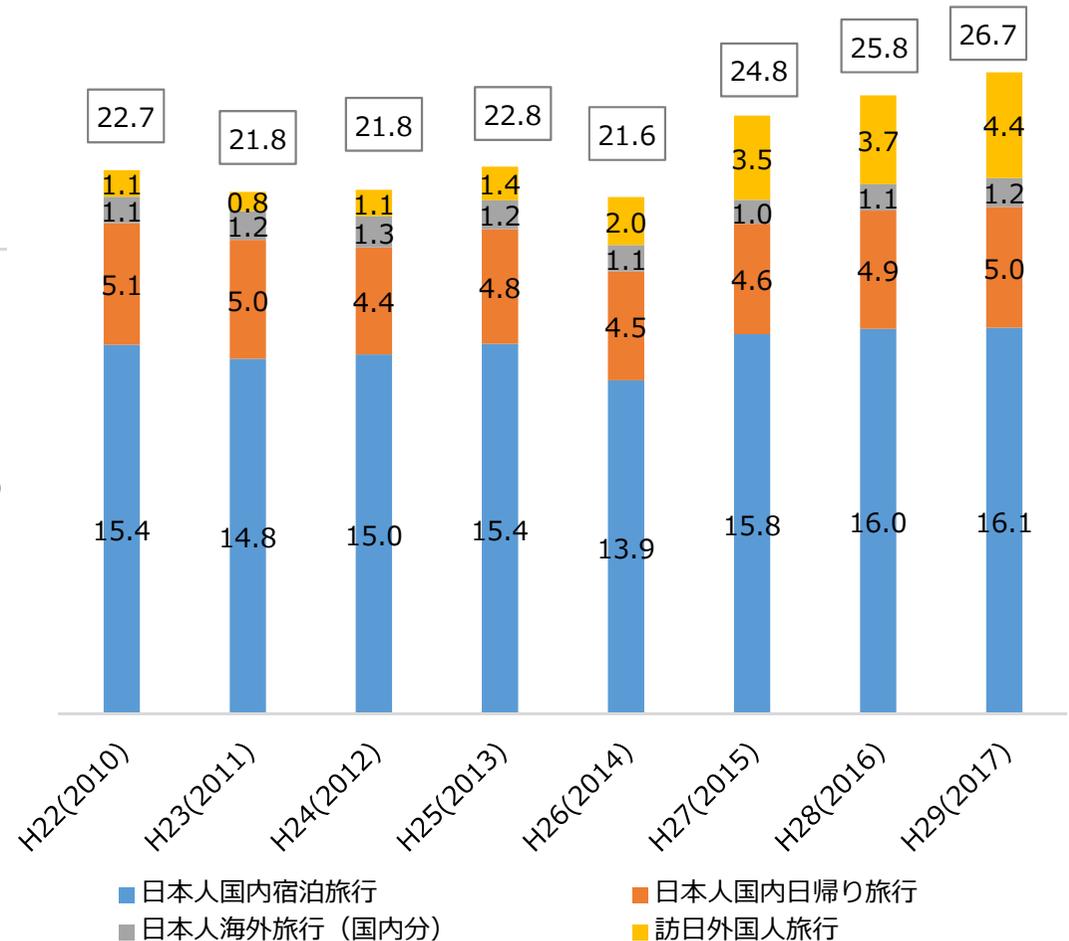
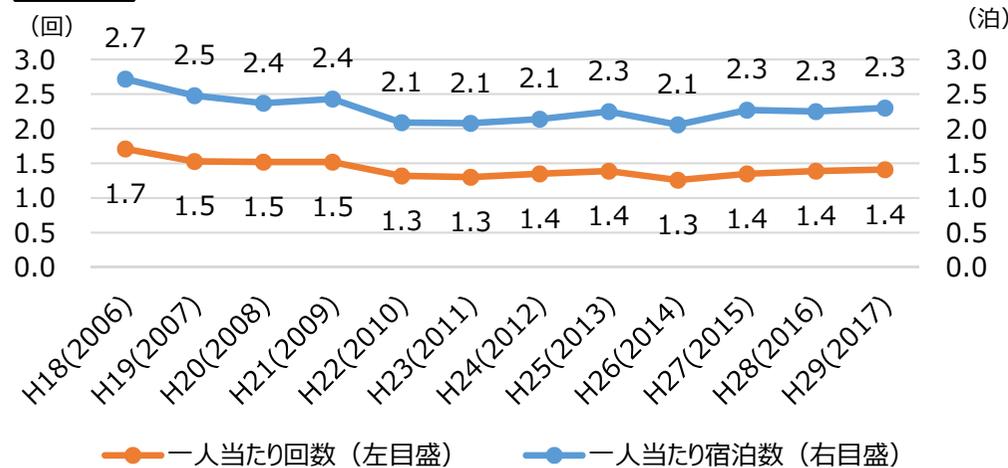


図2 国内宿泊観光旅行の回数及び宿泊数の推移



出典：観光庁「旅行・観光消費動向調査」、 「訪日外国人消費動向調査」

1

観光に関するマクロ環境（世界情勢・国内情勢）

2

豊岡市の動態と観光産業の位置付け

3

大交流の推進戦略

4

大交流ビジョンの目標数値

5

大交流ビジョンの実現に向けて

6

参考資料

- 豊岡市の総人口は1947年に10.3 万人で最多を数え、その後緩やかに減少している。2000年より人口減少ペースは加速し、2030 年には6.8 万人、2060 年には3.8 万人と推計される。 **(図1)**
- 1995～2000 年間に、高齢者人口が若年人口を上回った。2040～2045 年間に、高齢者人口が生産年齢人口を上回ると推計される。 **(図2)**
- 高齢者の中でも特に後期高齢者（75 歳以上）の増加が著しく、特に2010～2025 年の間には、18%の増加が見込まれる。ただし、高齢者人口も2020年をピークに減少傾向となる見込みである。 **(図2)**

図1 総人口の推移と将来推計
(1920～2060 年)

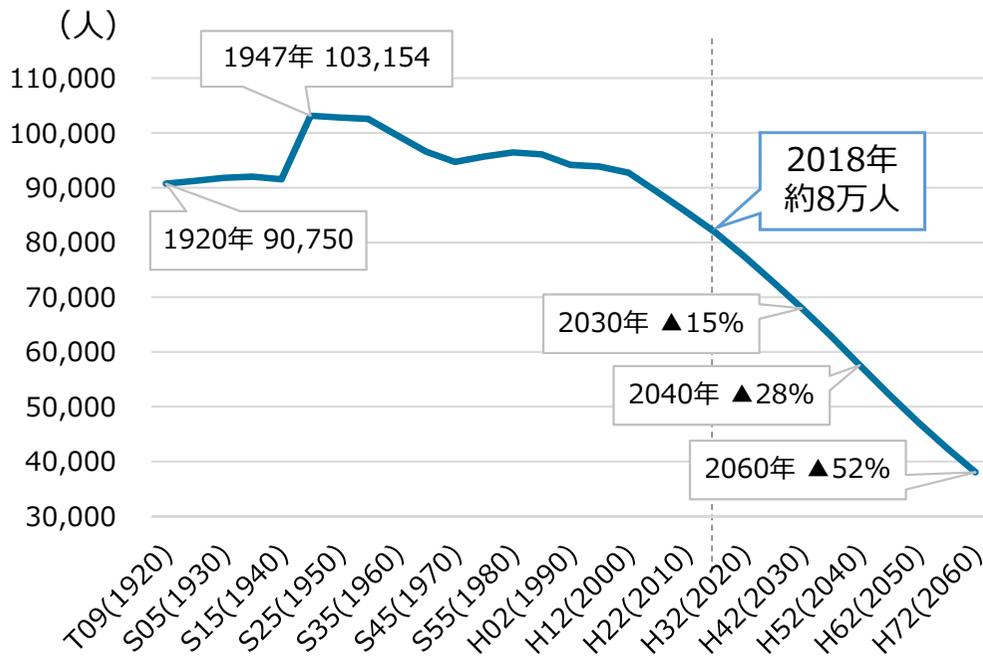
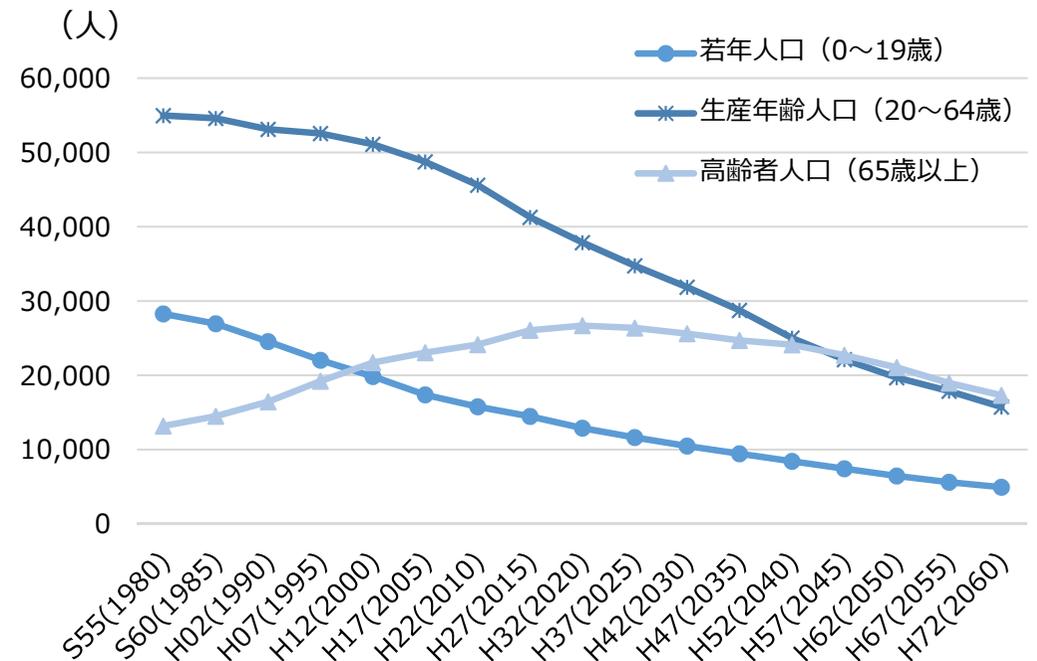


図2 年齢別人口の推移と将来推計
(1980～2060 年)

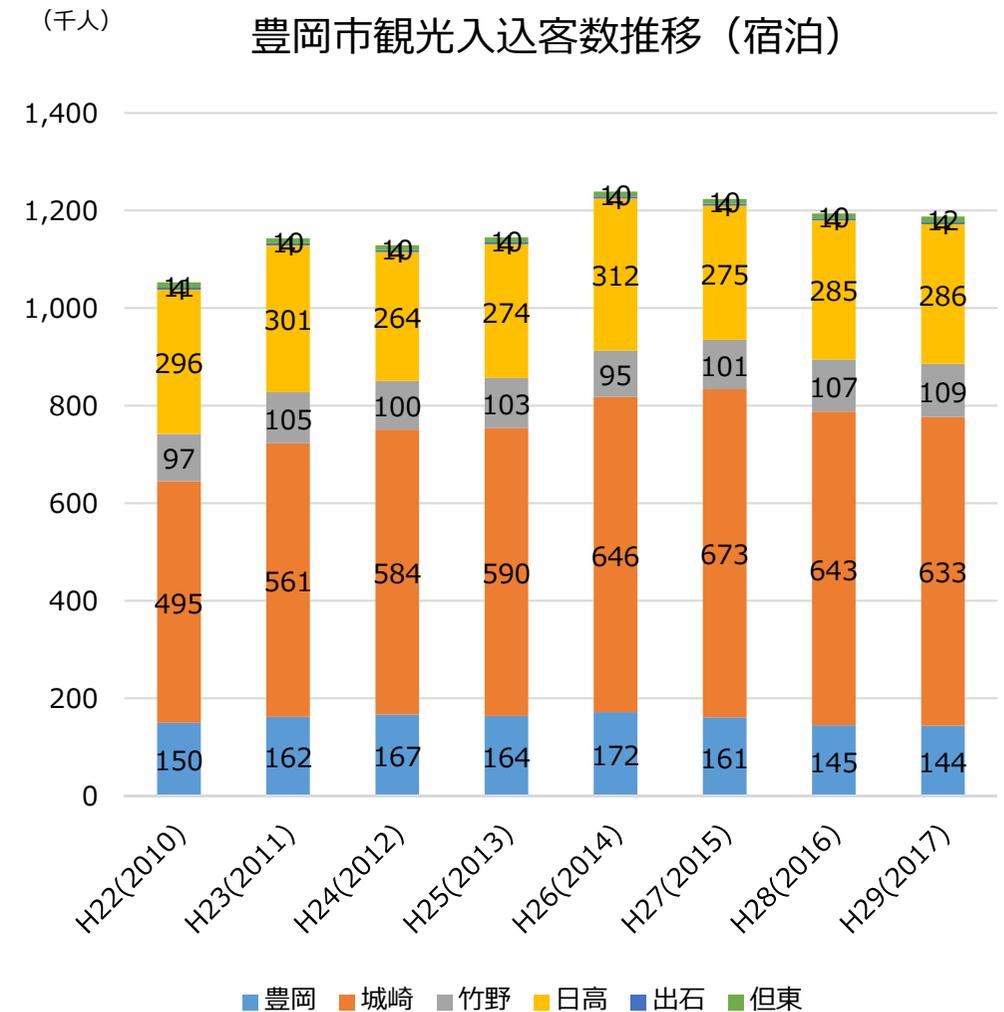
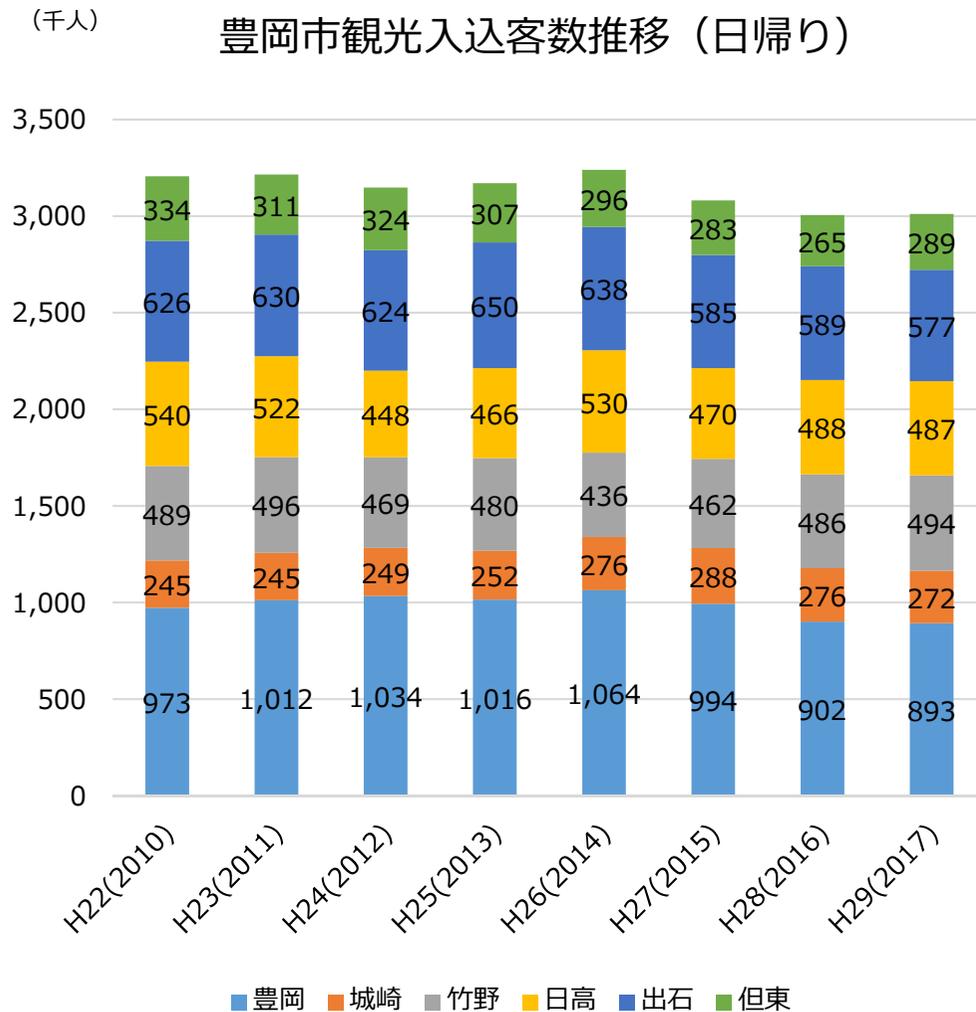


※パーセントの値は2018年7月時点の値（79,607人）と対比した減少率

出典：1920～2010 年は総務省統計局「国勢調査」、2015 年以降は内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局提供人口推計ワークシート（CD-ROM）により作成した本市基準推計

出典：1980～2010 年は総務省統計局「国勢調査」、2015 年以降は内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局提供人口推計ワークシート（CD-ROM）により作成した本市基準推計

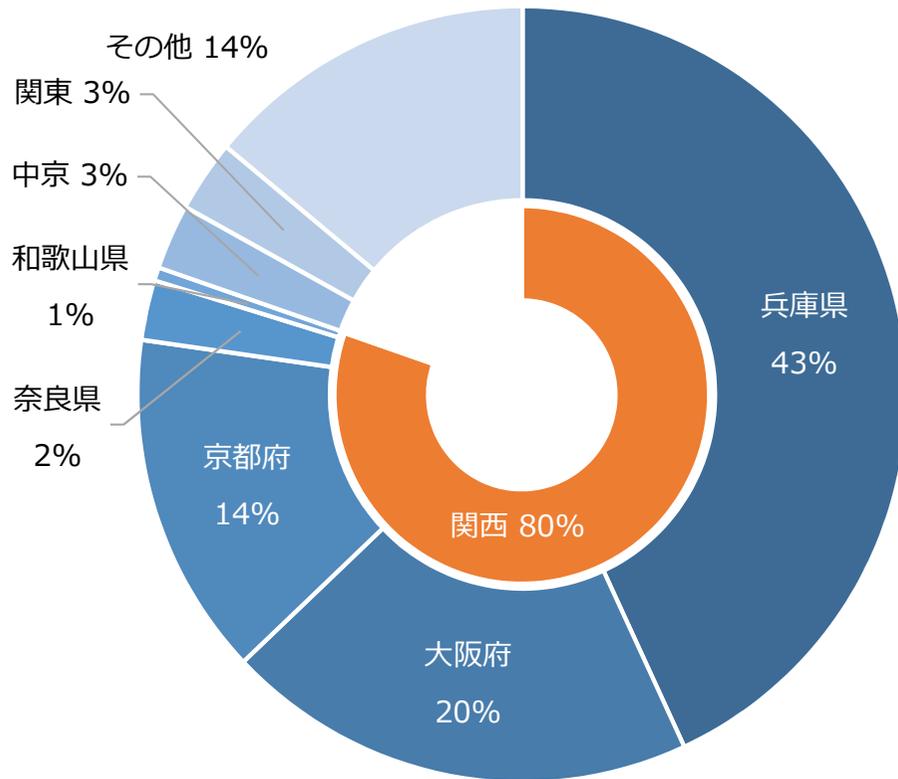
- 豊岡市の観光入込客数は日帰り客が微減傾向で宿泊客は微増傾向にある。2017年度時点で日帰り約300万人、宿泊約120万人である。地域別比率の推移はおおむね安定している。
- 2017年度の地域別比率（日帰り）豊岡 30%、出石 19%、竹野 16%、日高 16%、但東 10%、城崎 9%
- 2017年度の地域別比率（宿泊）：城崎 53%、日高 24%、豊岡 12%、竹野 9%、出石・但東 2%



- 豊岡市への来訪者は関西圏からの来訪が約8割を占め、そのうち、京都府、大阪府、兵庫県で約96%を占める。（図1）
- 豊岡市への来訪者は全国の旅行・行楽行動者と比較して30～50代の割合が高い。（図2）

図1

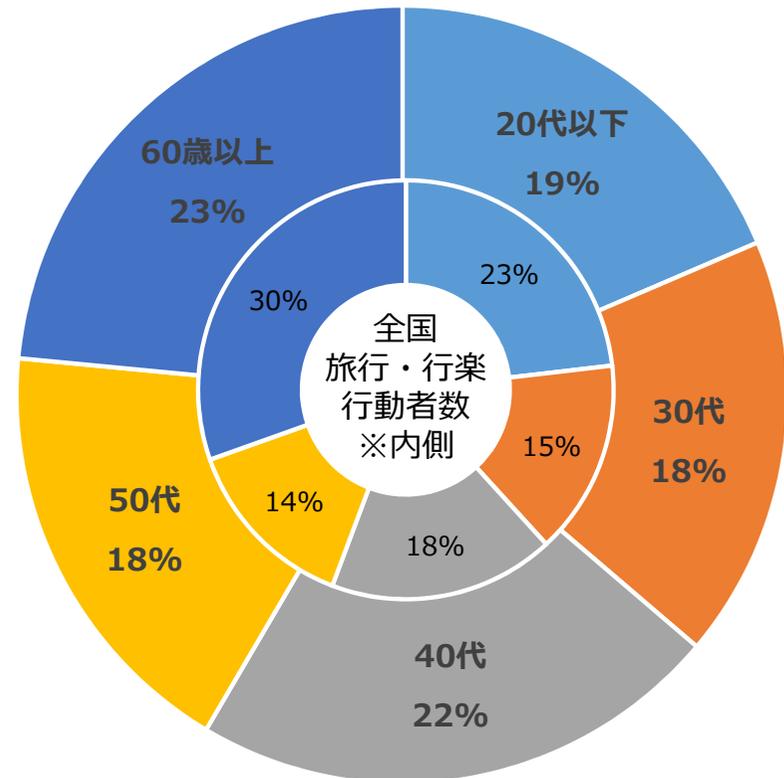
豊岡市来訪者の発地別集計



出典：豊岡市大交流課調べ

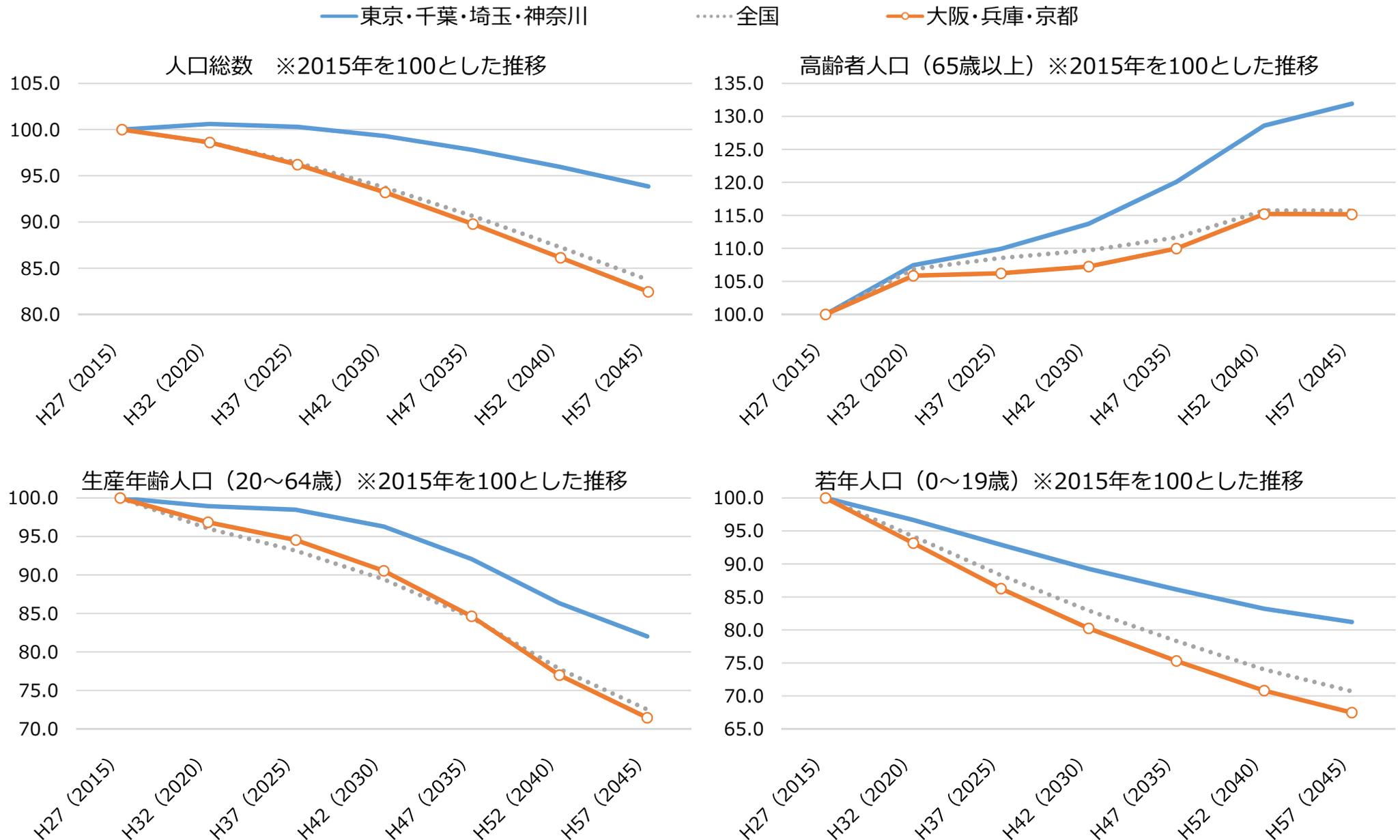
図2

H28（2016）豊岡市来訪者の年齢別集計 ※外側



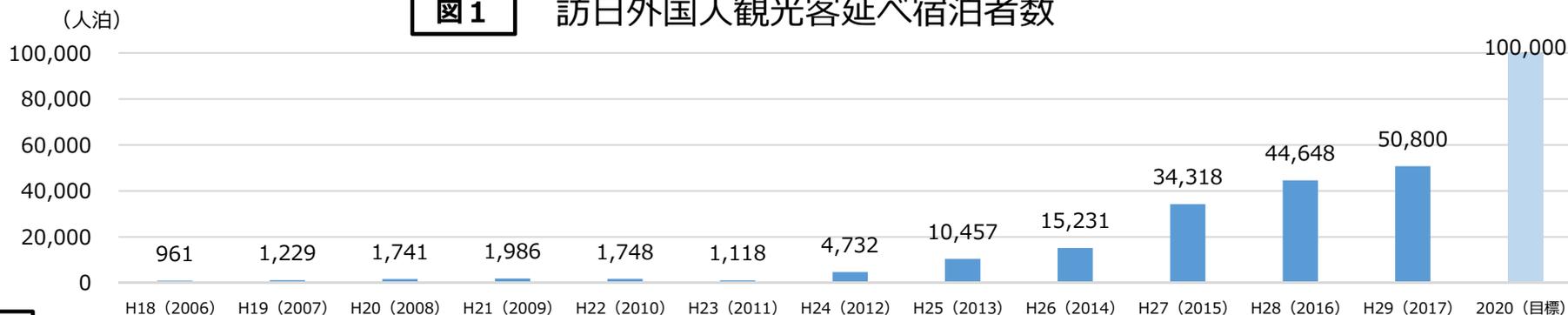
出典：豊岡市（外側）大交流課調べ
全国（内側）総務省H28年社会生活基本調

- 豊岡市最大のマーケットである関西圏（京都府・大阪府・兵庫県）の人口総数は、首都圏（東京都、千葉県、埼玉県、神奈川県）と比較すると大きく減少する見込みである。



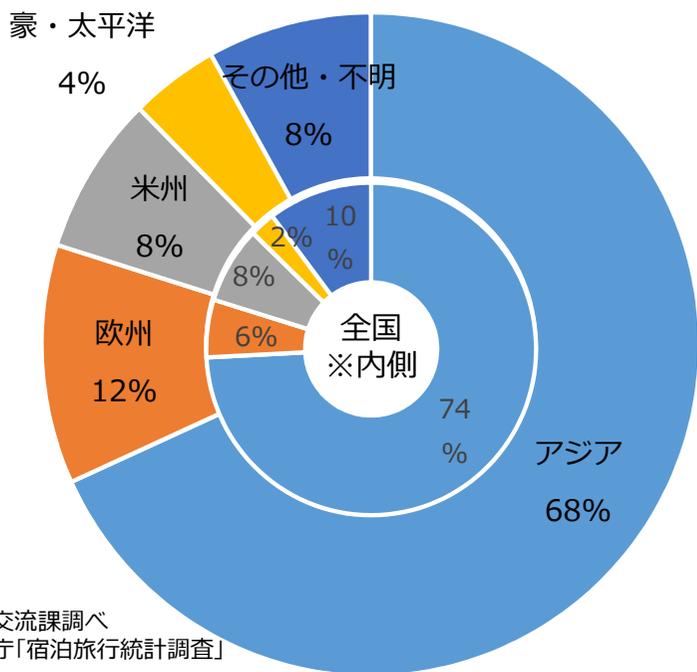
- 豊岡市の訪日外国人観光客延べ宿泊者数は2012年以降、急速に伸びている。（図1）
- 豊岡市の訪日外国人観光客延べ宿泊者数は、全国と比べてアジアの比率が低く、欧州の占める割合が高い。（図2）
- 日本での滞在日数から見ると城崎温泉（豊岡市に宿泊する外国人旅行者の約9割が城崎温泉に宿泊している）での平均宿泊数は1.3泊と非常に短い。（図3）

図1 訪日外国人観光客延べ宿泊者数



出典：豊岡市大交流課調べ

図2 H29（2017）豊岡市内宿泊者のエリア別集計 ※外側



出典：
豊岡市（外側）大交流課調べ
全国（内側）観光庁「宿泊旅行統計調査」

図3 訪日外国人観光客アンケート調査

エリア	2017年10月～2018年12月		
	有効回答数 (人)	日本滞在日数 (日)	城崎温泉宿泊数 (泊)
アジア	487	9.3	1.2
欧州	208	17.0	1.5
米州	174	17.5	1.4
豪・太平洋	88	16.7	1.3
その他	126	17.7	1.5
総計	1083	13.7	1.3

出典：豊岡観光イノベーション調べ

① 消費額

消費側からみた経済活動

観光消費額

豊岡市を訪れた観光客数の消費の総額を表す。

観光消費額

$$= \text{観光客数} \times \text{観光消費額単価}$$

<観光客数>

「国内観光客数の算出（ベース推計）」「外国人観光客数の算出（ベース推計）」により宿泊、日帰り観光客数を算出する。

<観光消費額単価の調査項目例>

アンケート調査で一人当たりの消費単価を調査する。

- ①交通費（域内分）
- ②宿泊費
- ③土産代
- ④飲食費
- ⑤入場料
- ⑥その他

※本資料では豊岡市内に訪れた観光客が豊岡市内で消費した額のアンケート調査で得た単価を用いる。

出典：豊岡市調べの数値を参考に作成

② 生産額

生産側からみた経済活動

生産総額（域内生産額）

各産業は、資本・用地を調達、労働者を雇用、機械・設備を使用、原材料を投入して財貨・サービスを生産する。
この生産された財貨・サービスの価値を市場価格によって評価し、単純に合計したものが、生産総額（産出額）である。
本資料では、**豊岡市内産業の生産額**を指す。

中間投入

生産の仮定で原材料費・光熱燃料・間接費等として投入された財貨及びサービスをいう。
本資料では**豊岡市内の産業に投入された原材料**を指す。

移輸出・移輸入

移出：豊岡市内産業が**国内の他地域**との取引で**外部に販売**した額。

移入：豊岡市内産業が**国内の他地域**との取引で**外部から購入**した費用。

輸出：豊岡市内産業が**国外**との取引で**外部に販売**した額。

輸入：豊岡市内産業が**国外**との取引で**外部から購入**した費用。

出典：兵庫県産業連関表を参考に作成

③ 総生産額（GDP）

生産側（※）からみた経済活動
一定期間内に財貨・サービスの生産を通して生み出された付加価値額の合計

付加価値額

1年間に豊岡市内における各産業の生産活動によって新たに生み出された価値の評価額を表したもの。

$$\text{付加価値額} = \text{生産総額} - \text{中間投入額}$$

付加価値額は次の項目が含まれる。

- ・家計外消費支出（企業の交際費等）
- ・雇用者所得（従業員給与・手当等）
- ・営業余剰（利益）
- ・資本減耗引当（減価償却費等）
- ・間接税(除関税)

本資料では、豊岡市の観光産業の代理指標として、**宿泊・飲食サービス部門の付加価値額**を扱う。

※総生産額は次の計算式で支出や分配からの算出も可能。原則、算出結果は一致する。

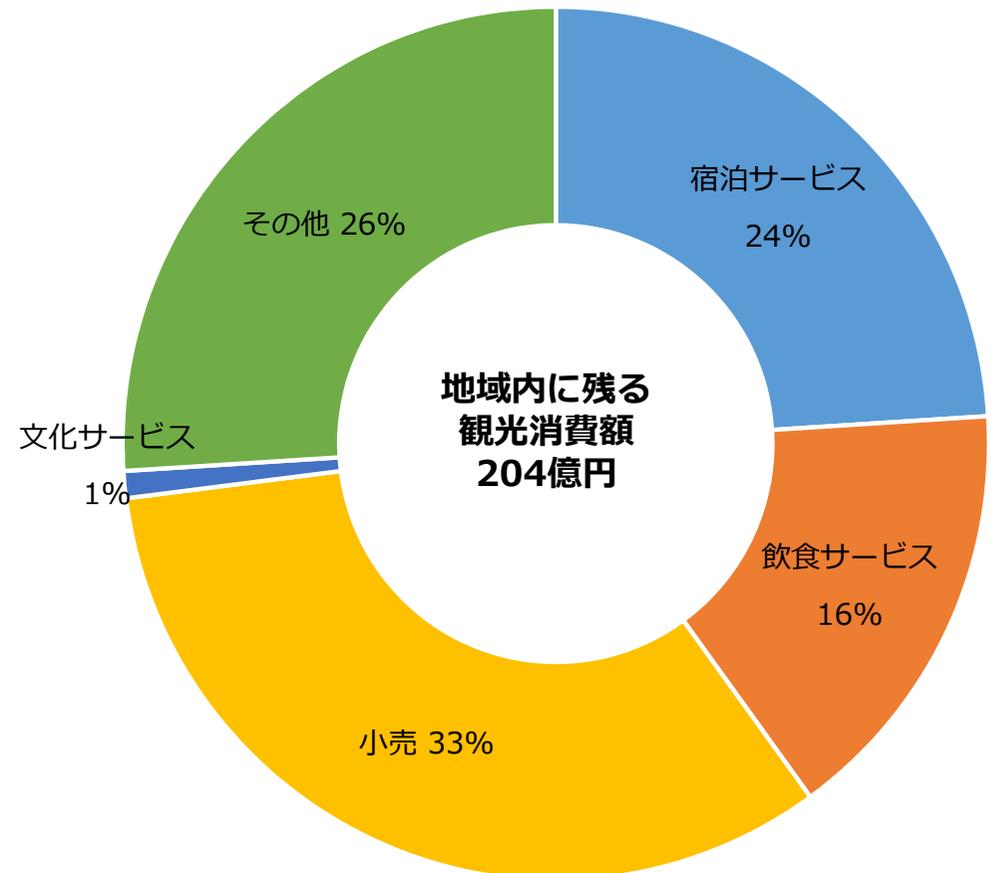
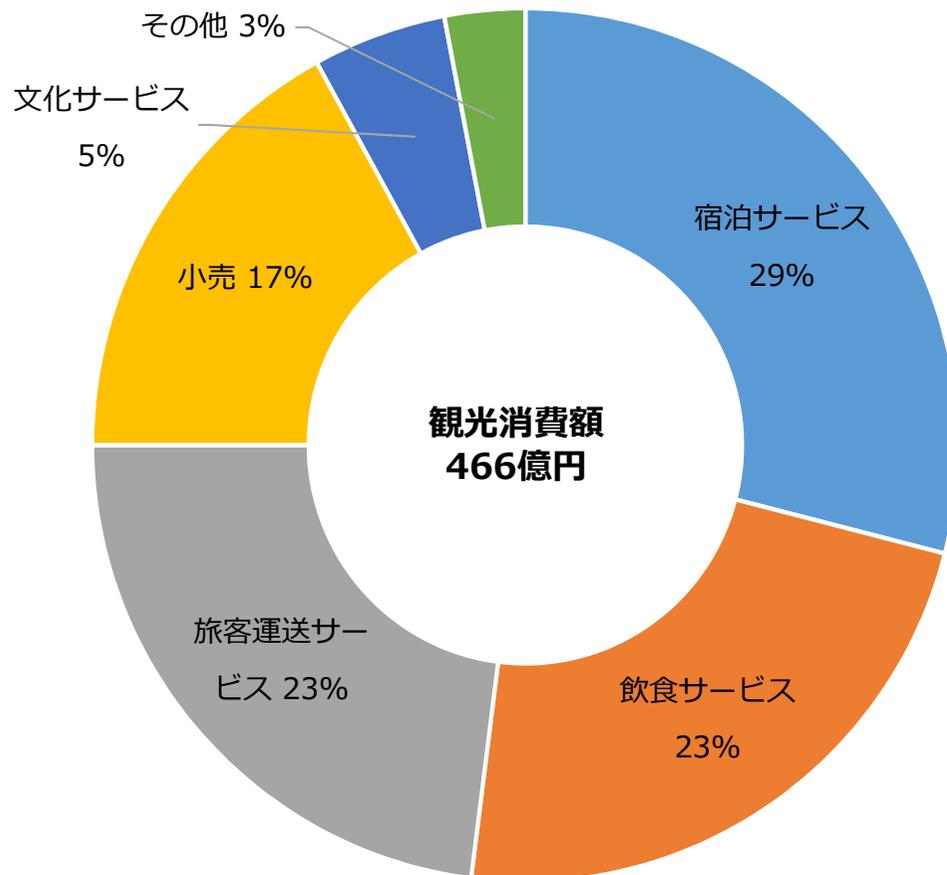
・支出側での計算式
民間最終消費支出 + 政府最終消費支出 + 市内総資本形成 - 純移出入

・分配側での計算式
市民雇用者報酬 + 財産所得 + 企業所得

出典：兵庫県市町民経済計算を参考に作成

- 2017年度の豊岡市来訪者数は349万人で、観光消費総額は466億円と推計される。うち、地域内に残るのが204億円と推計される。

豊岡市来訪者の観光消費額 H29年度（2017年度）

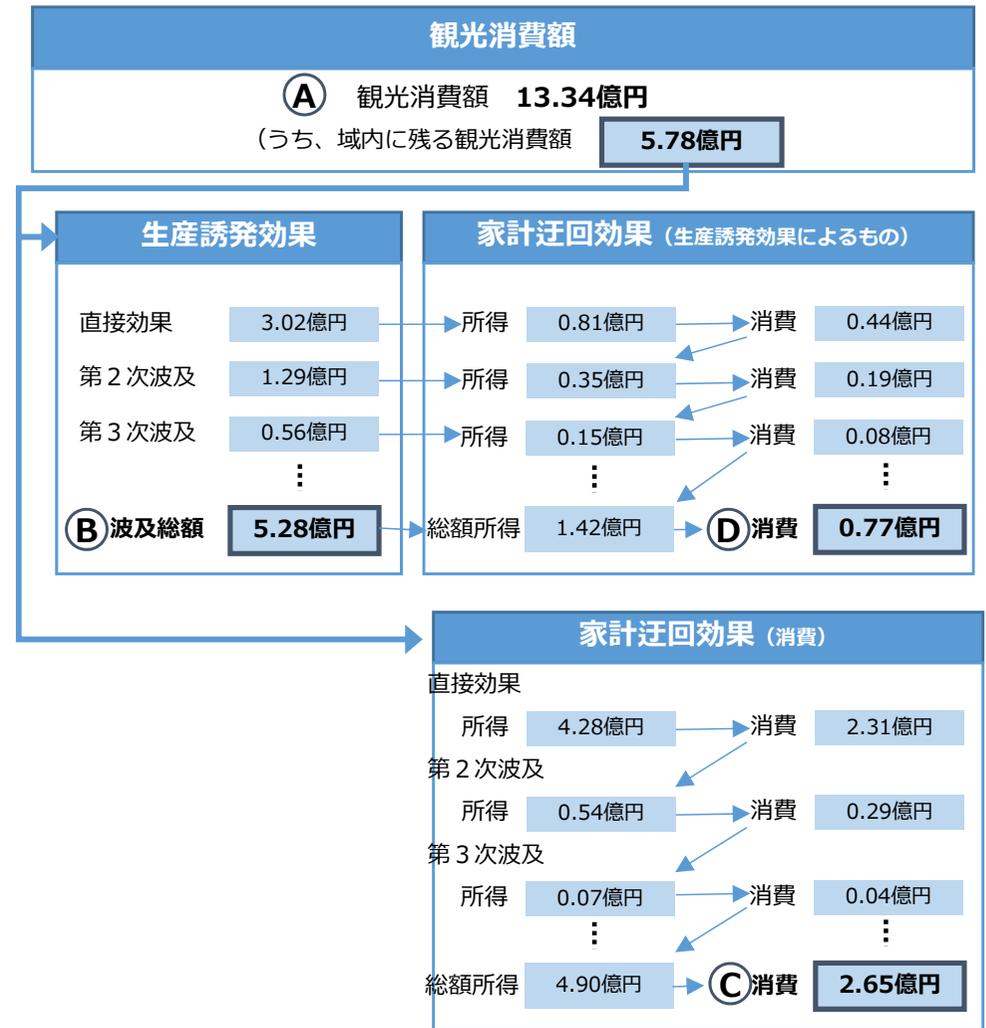


- 地域内に残る204億円の観光消費額によって地域内にもたらされた生産波及効果 (B+C+D) は318億円と推計され、すべての波及効果を合わせる (A+B+C+D) と784億円と推計される。

国内観光客の推計



訪日外国人観光客の推計



観光消費の経済波及効果

総額 (A+B+C+D)

762.40億円

→ **784.43億円** ←

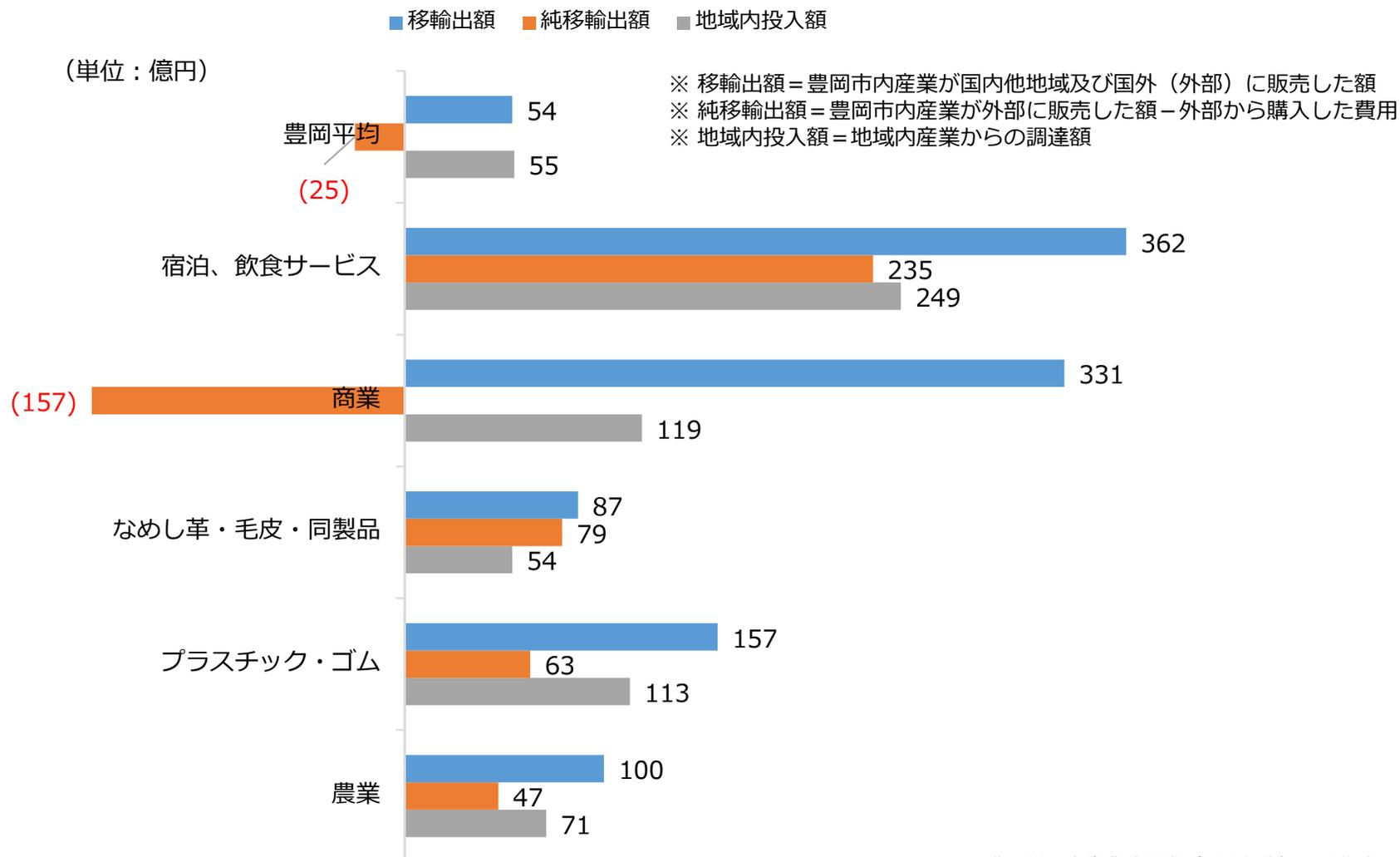
観光消費の経済波及効果

総額 (A+B+C+D)

22.03億円

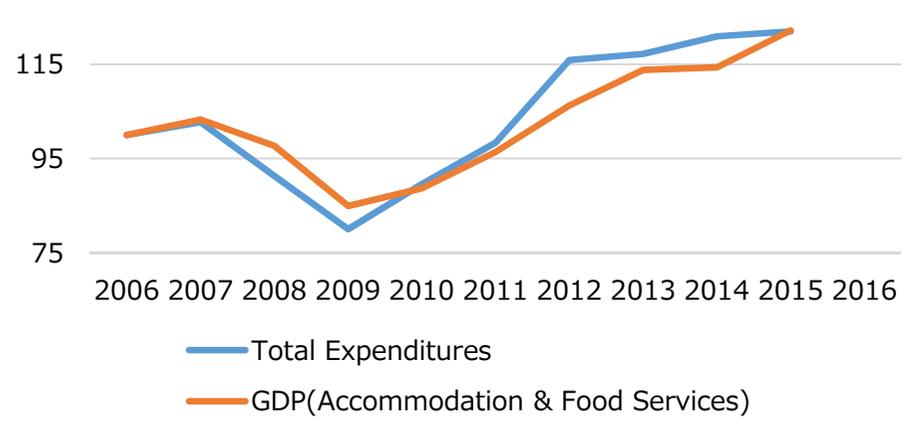
- 豊岡市の観光産業は他の産業より多くの外貨を稼ぎ、地域内に還流させている。
- 豊岡市の観光産業は、移輸出額が362億円と最も多いうえに、地域内投入額も249億円と最も多く、幅広い産業種別に投入されている。つまり、外貨を地域内に還流させて地域活性化を促す産業であり、豊岡市の基盤産業となっている。

主要産業の状況

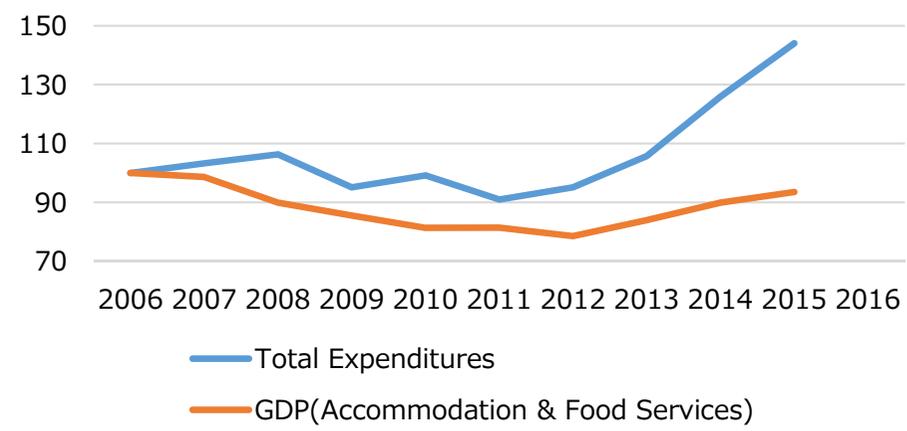


- ハワイ州は観光消費額と付加価値額が連動して推移している。つまり、観光で得た収入を付加価値形成に直結できている。一方で、沖縄県は観光収入の拡大が県内の観光産業の付加価値形成につながっていない。この原因は、沖縄県の宿泊・飲食サービス産業が県外へ支払う移輸入額が高いことや、雇用者報酬としての分配が少ないことなどが推察される。
- 豊岡市はハワイ州のように観光収入と付加価値形成の連動が見られるので、観光消費額を上げることが豊岡市内の観光産業活性化の観点で重要なポイントとなる。

ハワイ州（2006年の額を100とした場合の推移）



沖縄県（2006年の額を100とした場合の推移）



出典：Discussion of Destination Branding (https://resort-jp.com/2018/07/22/whats_point_of_area_development_by_tourism/2/) より作成

豊岡市（2006年の額を100とした場合の推移）



出典：
(GDP) 兵庫県「市町内総生産」より作成
(観光消費額) 兵庫県「観光客動態調査」に基づ
く豊岡市内情報、豊岡市大交流課の消費
単価調べより作成

✓ 豊岡市の観光産業は、幅広い市内の産業の経済効果や雇用効果に波及している。

豊岡市来訪者の観光消費額
H29 (2017)
※国内、インバウンド合計



豊岡市内に残る
観光消費額



宿泊 24%

飲食 16%

小売 33%

文化・娯楽
スポーツ 1%



1

観光に関するマクロ環境（世界情勢・国内情勢）

2

豊岡市の動態と観光産業の位置付け

3

大交流の推進戦略

4

大交流ビジョンの目標数値

5

大交流ビジョンの実現に向けて

6

参考資料

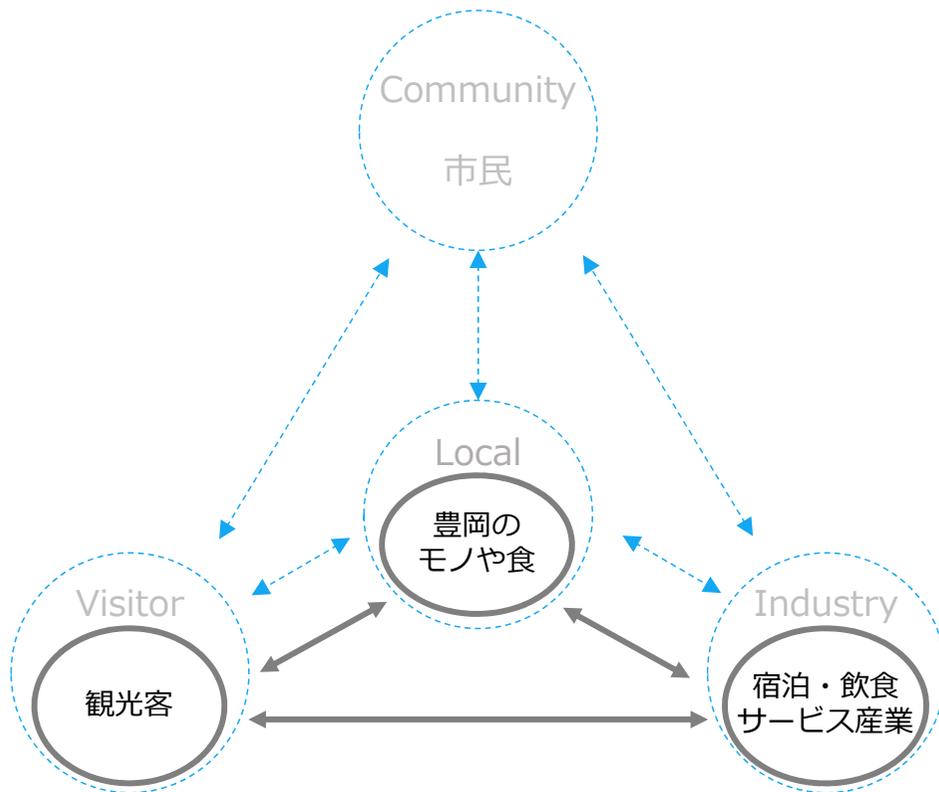
- 豊岡の観光産業は、地域外からの消費を生み出して地域内に幅広く還流させて市全体を潤す基盤産業
- 世界的に成長市場である観光需要を豊岡市内に取り込むことで、さらなる発展が見込まれる
- これらを実現するためには次の3つの視点が重要である。

- ① **市民**が豊岡のローカル[※]に誇りを持ち、市民同士の交流が盛んにおこなわれ、暮らしを楽しみ、豊かになっている状態を目指す。
- ② **観光客**のみならず、世界が豊岡のローカルに憧れ、共感して訪れたい・暮らしたい状態を目指す。
- ③ **市内の幅広い産業**が、豊岡のローカルを活用した商品やサービスを世界に提供している状態を目指す。

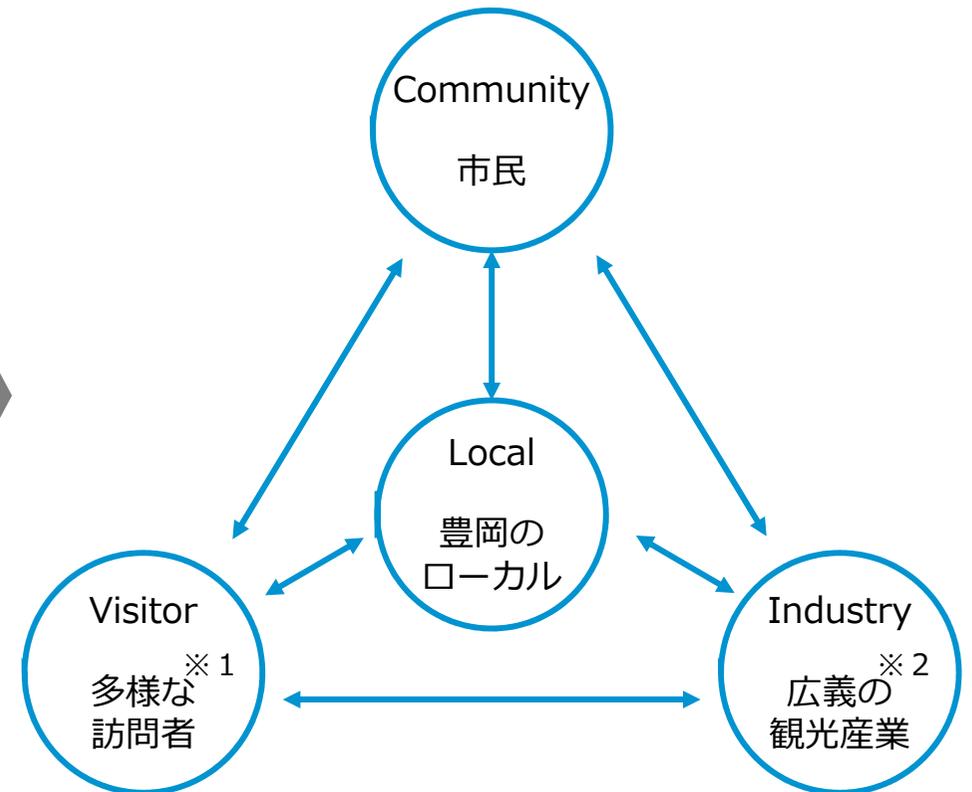
※豊岡のローカルとは：豊岡の歴史や風土などに根ざした環境や文化、また、ライフスタイルなど

- これまでの観光は、物見遊山的で、観光客と一部の宿泊・飲食サービス事業者だけのものとして狭く捉えられていた。
- 市民自身が市内の観光を楽しんだり、市民の日常こそが観光資源になりうること、観光の振興が市民生活の豊かさの向上につながることなど、市民という視点が弱かった。
- 豊岡のローカルを核として、市民、多様な訪問者、広義の観光産業が相互に作用しながら地域全体にイノベーションが起きている状態を目指すべきである。

従来の「観光」の捉え方



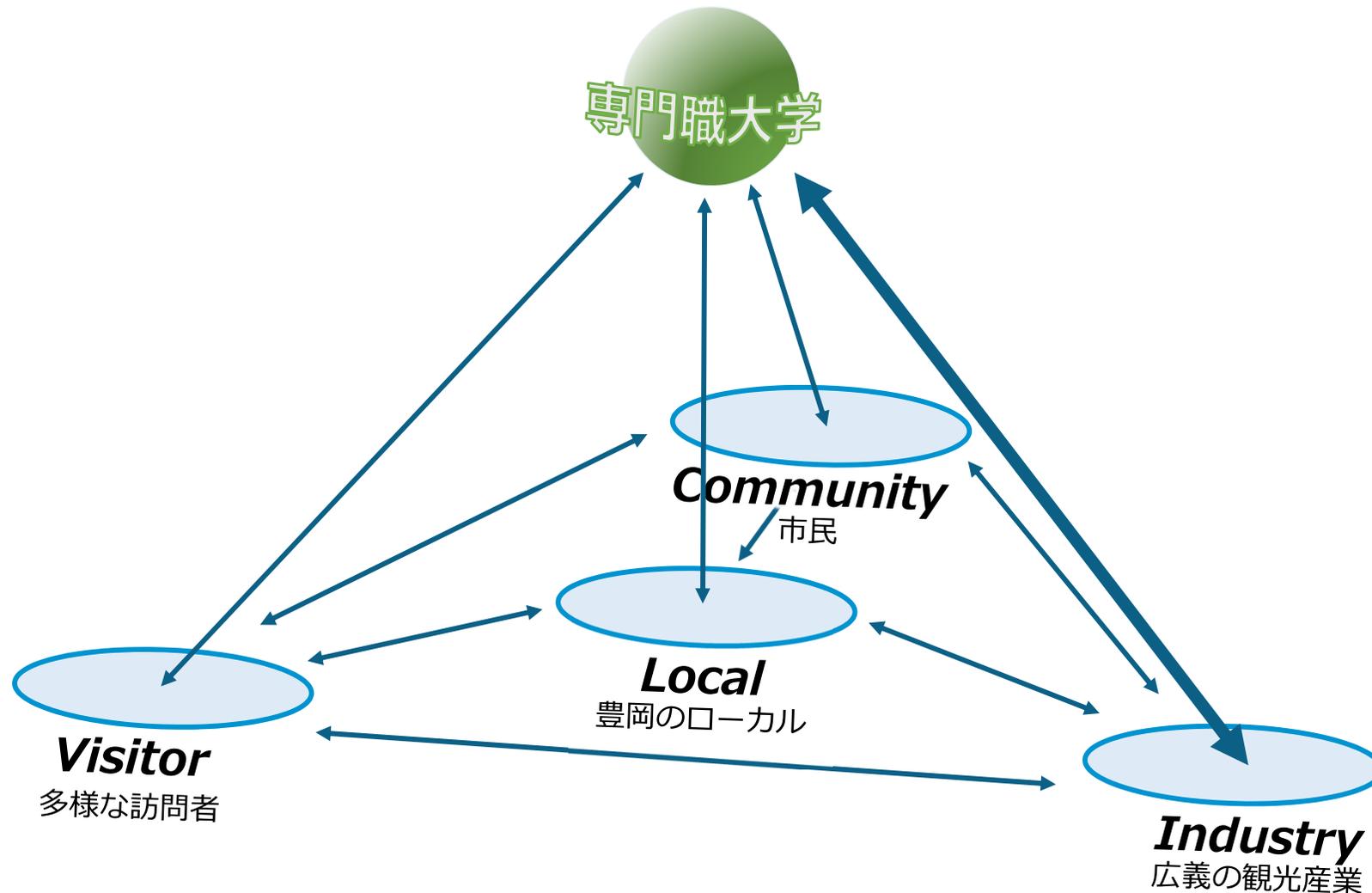
新たな「観光」の捉え方



※ 1 多様な訪問者の多様とは：訪問の目的、訪問者の属性（年齢・性別・国籍・障害の有無など）を限らない
※ 2 広義の観光産業とは：従来の観光業のほか、豊岡への訪問者を相手とした農林水産業や靴産業など

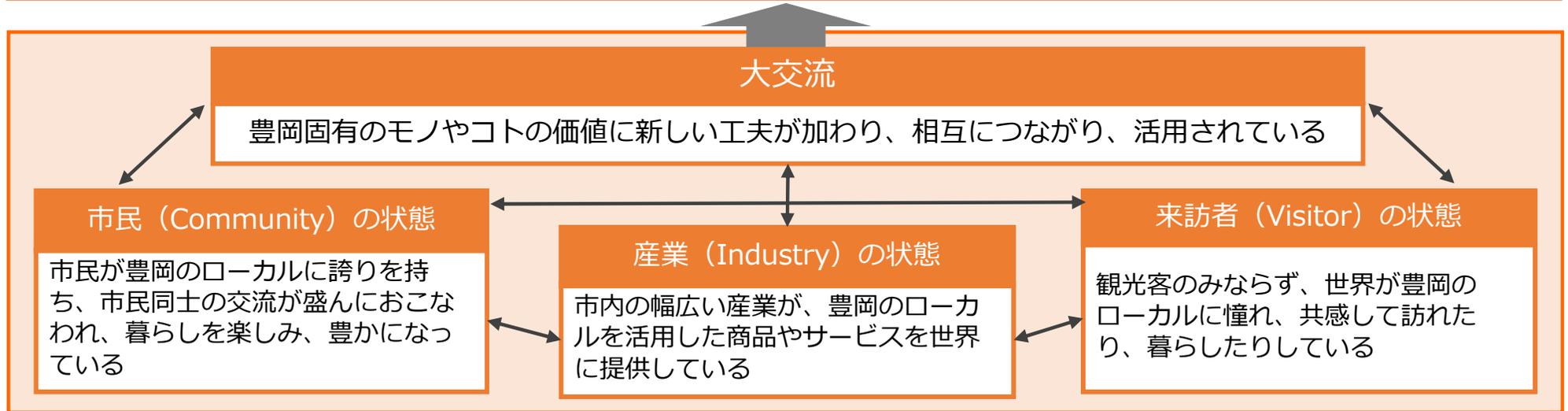


- 2021年開学予定の県立専門職大学は、文化（芸術）と観光の親和性に着目したコース設定が想定されており、大交流モデルの新たなステークホルダーとしての役割を果たすことが期待されている。



小さな世界都市 Local & Global City

大交流を通じて豊岡にイノベーションが起きている



解決すべき課題

- ① 市民が豊岡観光を楽しめていない
- ② 市民全員がおもてなしに取り組む土壌ができていない
- ③ 市民が観光による豊かさを感じられていない

+

- ① 幅広い産業が観光に関わっていない
- ② 地消地産が進まない、ローカルを活用できていない
- ③ 観光産業の働き手の確保が困難となっている

+

- ① 豊岡ブランドが知られていない
- ② 市内の観光地が点在し相互に連携できていないため、回遊できていない
- ③ 豊岡のローカルの魅力を満喫できていない

掛け合わせる対応策

- ① すべての人が観光を楽しめる環境の整備
- ② 観光コミュニケーションの推進
- ③ 市民生活と観光の調和

×

- ① 産業間の協業促進や起業支援
- ② 高付加価値化による地消地産の促進
- ③ 観光需要の平準化と雇用環境の改善

×

- ① マーケティングの強化
- ② 地域間連携と二次交通の確保、充実
- ③ 環境やアートなど豊岡ローカルの磨き上げ

1 豊岡にしかない価値や豊岡でしか経験できないローカルを磨く

2 成長市場であるインバウンドの宿泊誘客を重点的に取り組む
(宿泊客数の増加、延泊の促進、消費額単価の拡大)

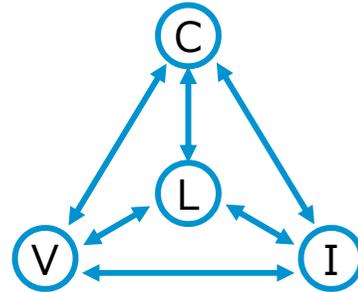
3 国内旅行では、縮小する関西圏市場への依存から脱却し、新規市場を開拓する

4 観光需要の平準化を図り、年間を通じた安定的な雇用を創出する

5 専門職大学との連携により人材の育成を図るとともに、待遇改善や働き方改革により人材を確保する

6 地消地産を進め、地域内調達率を高めることにより、市内の経済循環を促進する

日常の観光資源化

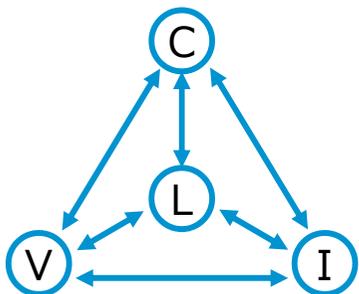


<豊岡のローカル>
豊岡の日常的な暮らしや楽しみ
<期待される効果>
C: 日常的な生活や活動が誇りに
V: 豊岡の豊かさを体験しファンに
I: 1次産業の観光資源化

<具体的な取組例>

- ・ 城崎温泉ステキ体験旅行社やすいっち出石などの活動の支援
- ・ 但東地域での農業体験や竹野地域の海町マーケットの推進
- ・ 植村直己のチャレンジ精神の継承

コウノトリツーリズム

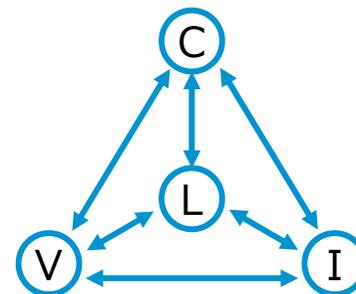


<豊岡のローカル>
コウノトリ野生復帰の取り組み
<期待される効果>
C: 世界に誇る豊岡の取組みを語ることができる
V: 豊岡の取組みへの共感から貢献へ
I: 社会的な貢献活動

<具体的な取組例>

- ・ 野生復帰の取組みを世界に発信
- ・ 湿地保全活動を通じた市民との交流機会の創出
- ・ 企業のCSV活動の受け皿として商品化
- ・ 活動後は温泉で汗を流せるようパッケージ化

地場産業の観光資源化

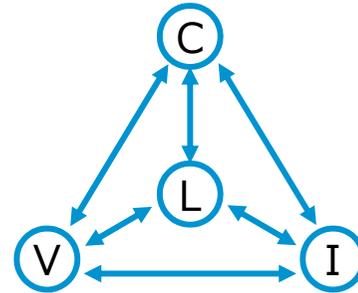


<豊岡のローカル>
豊岡靴やコウノトリ育むお米などの地場産品
<期待される効果>
C: 市民が風景風土を再発見する
V: 地場産品を求め豊岡へ、買物観光
I: 新たなマーケットの開発

<具体的な取組例>

- ・ 地域ブランドのマーケティング強化
- ・ 工場や農園などでの体験、見学ツアーの検討
- ・ 地消地産の推進
- ・ 豊岡産品の市民利用の促進

スポーツツーリズム

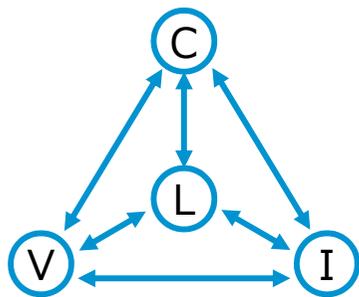


＜豊岡のローカル＞
円山川や神鍋高原などの自然環境
＜期待される効果＞
C:市民が風景風土を再発見する
V:目の前の自然や景観を理解し楽しむ
I:地消地産、豊岡の名品をお土産に

＜具体的な取組例＞

- ・ランニングやサイクリングができる環境の整備
- ・ボート競技など世界レベルの大会の誘致
- ・大会ボランティアなど市民が支える仕組みの構築
- ・ジオパークの取組みの推進

ユニバーサルツーリズム

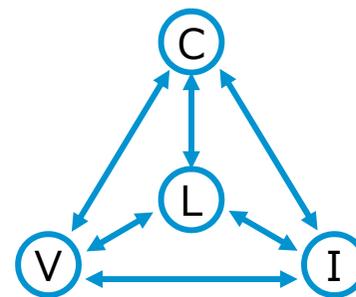


＜豊岡のローカル＞
多様性を受け入れる土壌や経験など
＜期待される効果＞
C:市民も豊岡観光を楽しむ、多様性を受け入れる
V:支障なく観光を楽しむ
I:ソフト・ハード両面の環境整備

＜具体的な取組例＞

- ・多様な文化や考え方を学ぶ機会の設定
- ・宿泊施設や温浴施設のバリアフリー化の推進
- ・サインや案内などの外国語表記や平易な表現
- ・「観光権」的な考え方の導入

小規模MICE（会議・研修・学会・展示会等）



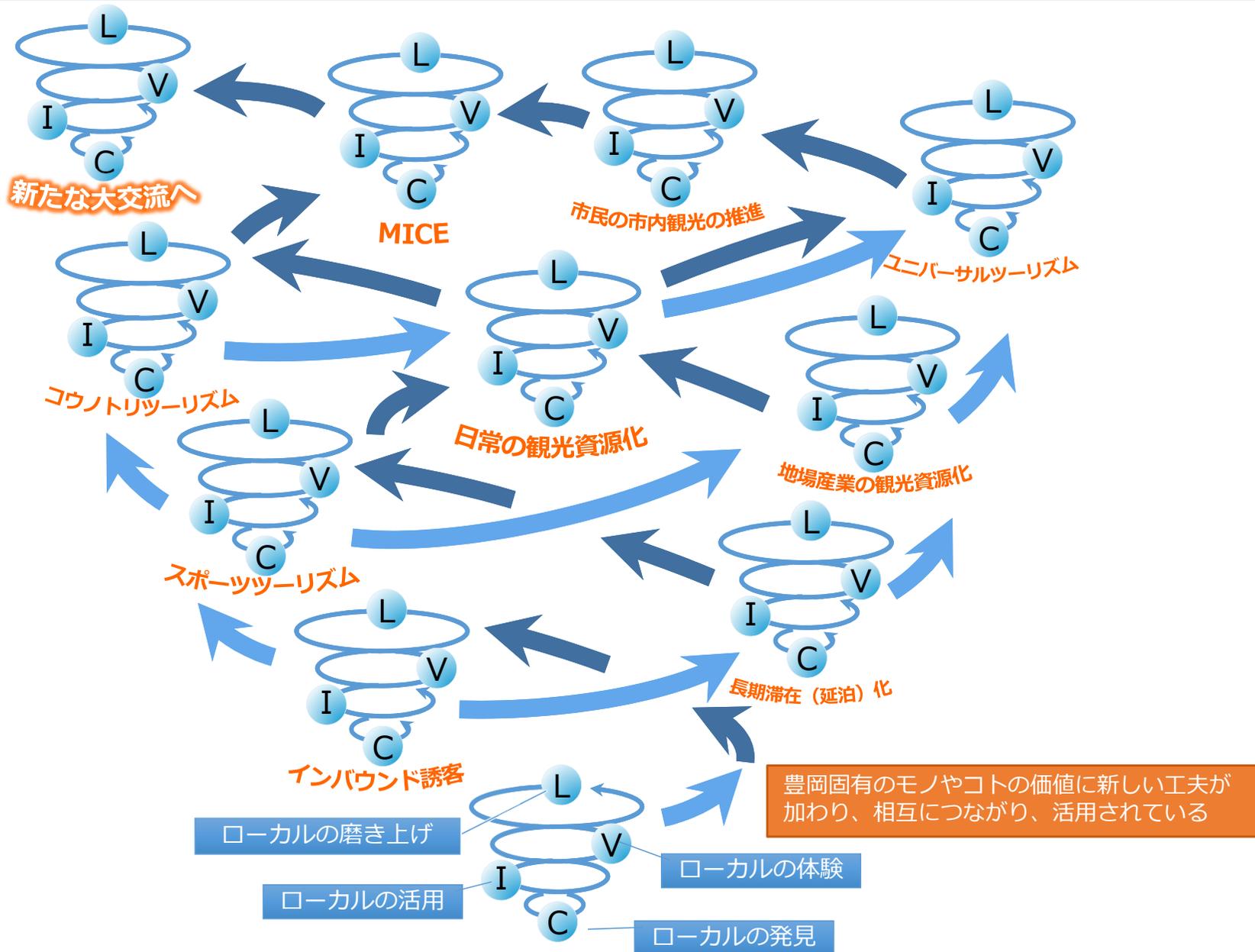
＜豊岡のローカル＞
歴史や文化、自然及び関連した豊岡のユニークベニュー※
＜期待される効果＞
C:多様な人が憧れる豊岡の価値を再認識
V:インスパイアされる風土や文化
I:平日の宿泊者増、長期滞在化

＜具体的な取組例＞

- ・会議施設・宿泊・交通等が連携した受入スキームの整備
- ・自然保護関連の学会誘致や国際演劇祭の開催
- ・グローバルMICE都市（京都等）と連携した小旅行の実施

※ 会議やレセプション開催時に、歴史的建造物や公的空間等で特別感や地域特性を演出できる会場

- 小さな大交流が相互に作用し、大きな渦となり地域全体にイノベーションが起こっている。



1

観光に関するマクロ環境（世界情勢・国内情勢）

2

豊岡市の動態と観光産業の位置付け

3

大交流の推進戦略

4

大交流ビジョンの目標数値

5

大交流ビジョンの実現に向けて

6

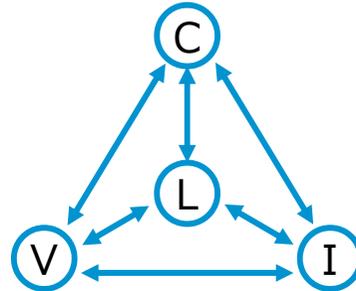
参考資料

小さな世界都市
Local & Global City

人口規模は小さくても、ローカルであること、地域固有であることを通じて世界の人々から尊敬され、尊重されるまち

大交流を通じて
豊岡にイノベーションが
起きている

イノベーションから生まれるポジティブな反応



主観的

- ・ 誇り
- ・ 憧れ
- ・ おもてなし
- ・ 共感

経済的

- ・ 地域雇用
- ・ 利益
- ・ うるおい

KGIに必要な要素

- ✓ 世界からの尊敬度合を評価できる指標が必要
- ✓ イノベーションの度合いを測るには、主観的な評価指標と経済的な評価指標での目標管理が有効
- ✓ 経済的指標は、ひたすら成長を目指すのではなく、小さな世界都市に適した目標が必要

測定対象		K G I	測定方法
主観的指標	尊敬度合、誇り、おもてなし、憧れ、共感	N P S（ネットプロモータースコア） 豊岡市をどのくらい人に推奨したいかを測る指標	来訪者アンケート
経済的指標	地域雇用、利益、うるおい	観光産業による経済波及効果総額 豊岡市来訪者による観光消費額も含めた経済波及効果がどのくらいあったかを測る指標	来訪者アンケート 訪問聞き取り調査

小さな世界都市 Local & Global City

戦略目的

大交流を通じて豊岡にイノベーションが起きている

KGI

- ✓ N P S
- ✓ 経済波及効果の総額

Visitor

観光客のみならず、世界が豊岡のローカルに憧れ、共感して訪れたり、暮らしたりしている

- 01 施策 A
- 02 施策 B

KPI

- ✓ N P S
- ✓ 来訪者数
- ✓ 観光消費額単価

Industry

市内の幅広い産業が、豊岡のローカルを活用した商品やサービスを世界に提供している

- 01 施策 C
- 02 施策 D

KPI

- ✓ 観光消費額
- ✓ 地域内調達率

Community

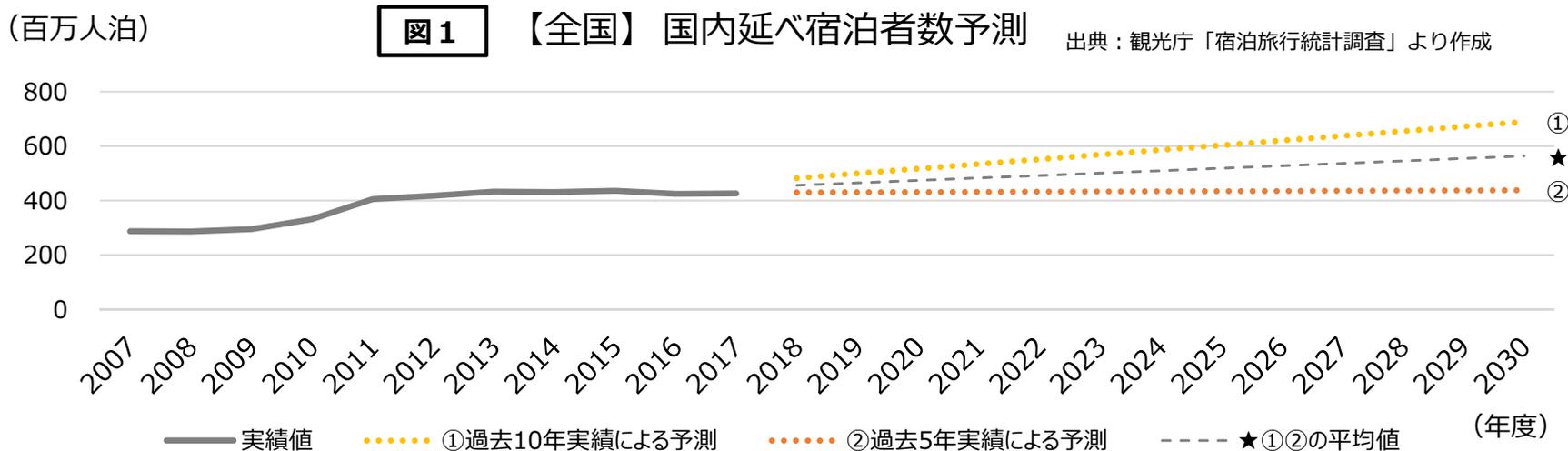
市民が豊岡のローカルに誇りを持ち、市民同士の交流が盛んにおこなわれ、暮らしを楽しみ、豊かになっている

- 01 施策 E
- 02 施策 F

KPI

- ✓ 市民生活との調和度
- ✓ 地域雇用

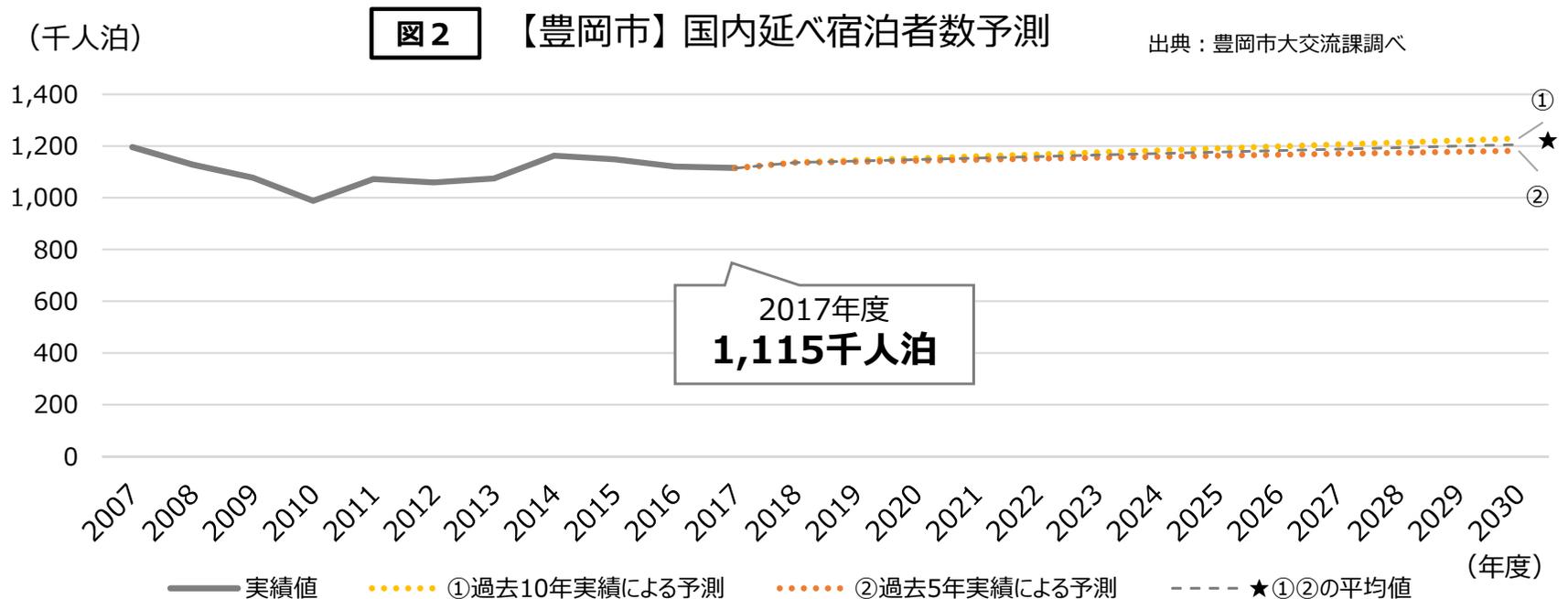
- 全国の国内延べ宿泊者数は長期的には増加傾向だが、中期的には横ばい傾向。（図1）
- 豊岡市では、2010年度を底に2014年度まで上昇。中長期的には微増傾向。（図2）



① 2030年度 **690百万人泊**
〔2017年度対比〕**+63%**

★ 2030年度 **564百万人泊**
〔2017年度対比〕**+32%**

② 2030年度 **438百万人泊**
〔2017年度対比〕**+3%**



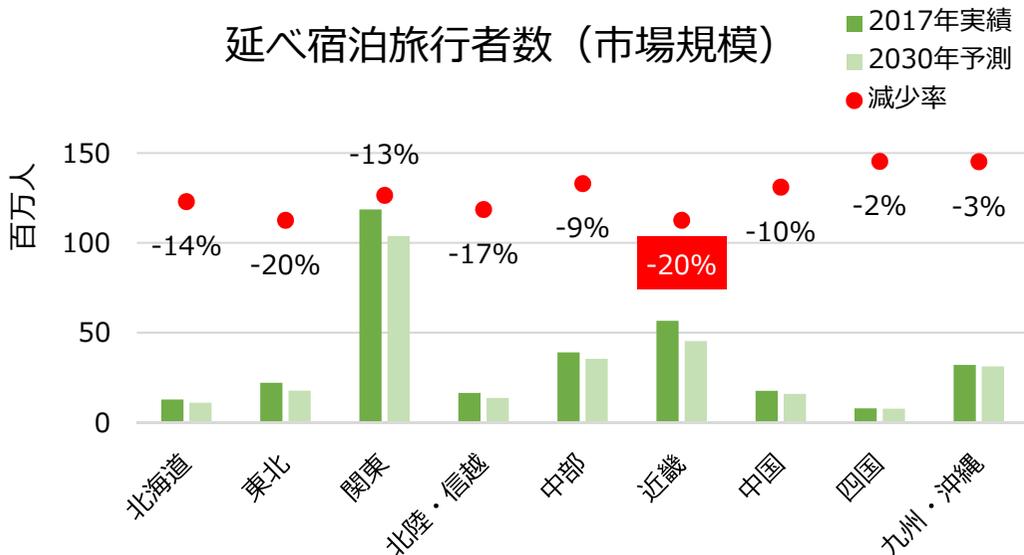
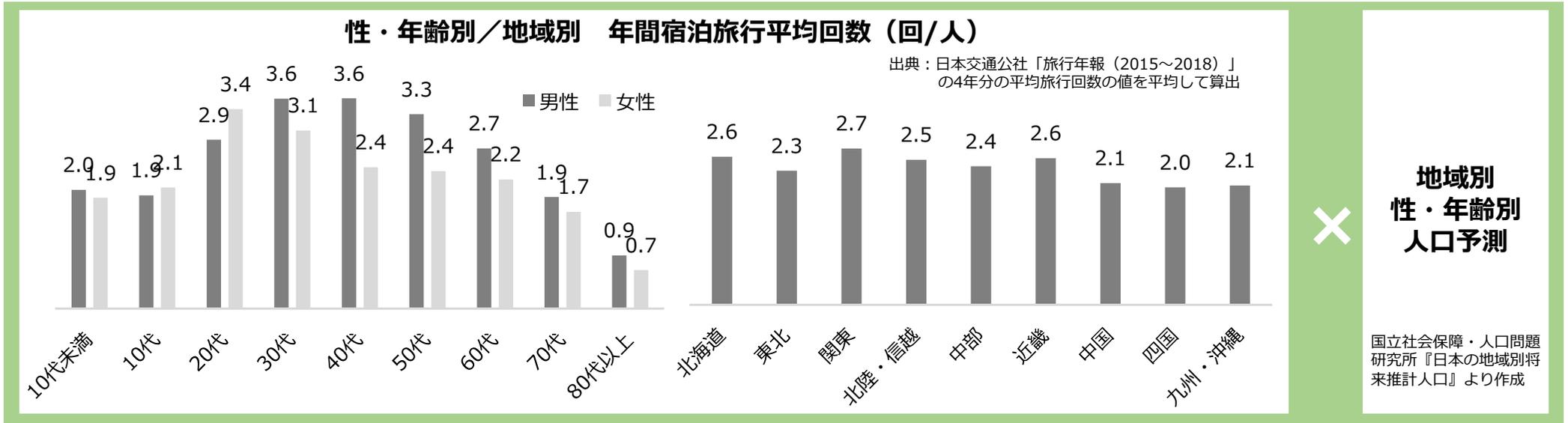
予測A（上位）

① 2030年度 **1,230千人泊**
〔2017年度対比〕**+10%**

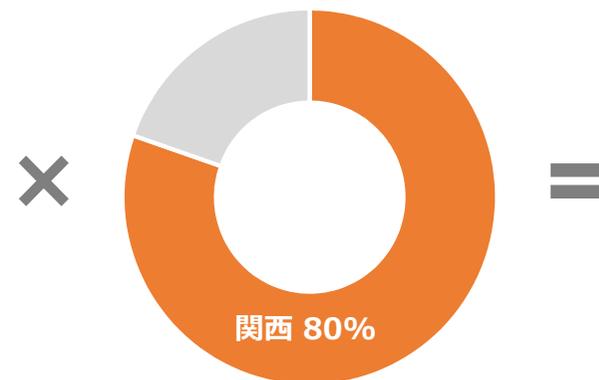
★ 2030年度 **1,206千人泊**
〔2017年度対比〕**+8%**

② 2030年度 **1,182千人泊**
〔2017年度対比〕**+6%**

- 宿泊旅行者数は経済要因も影響するため、居住地域や性・年齢によって1人当たりの宿泊旅行回数は異なる。
- 性・年齢別/地域別の人口予測を加味すると、延べ宿泊旅行者数（市場規模）は地域によって減少率が異なる。
- 豊岡市への来訪者は8割が関西圏からであるため、現状の発地別割合のままでは更なる減少（▲18%）が予想される。
⇒ **関西市場に偏重した状態から脱却するためには、首都圏などの新たな有望市場からの誘客を強化する必要がある。**



豊岡市来訪者の発地別集計



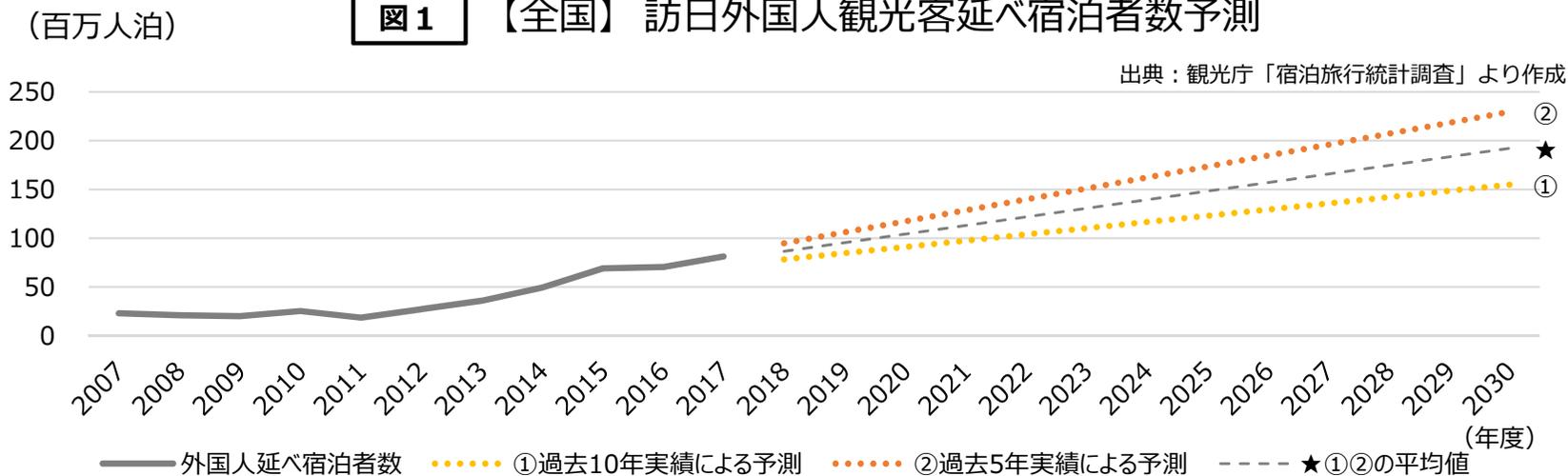
予測B（下位）

2030年度
911千人泊

〔 2017年度対比 〕
▲18%

- 豊岡市の訪日外国人観光客延べ宿泊者数は長期的に増加傾向。（図2 ①）
- 2014年から2015年に急上昇したため中期的には20万人泊に達する予測もできる。（図2 ②）

【全国】 訪日外国人観光客延べ宿泊者数予測

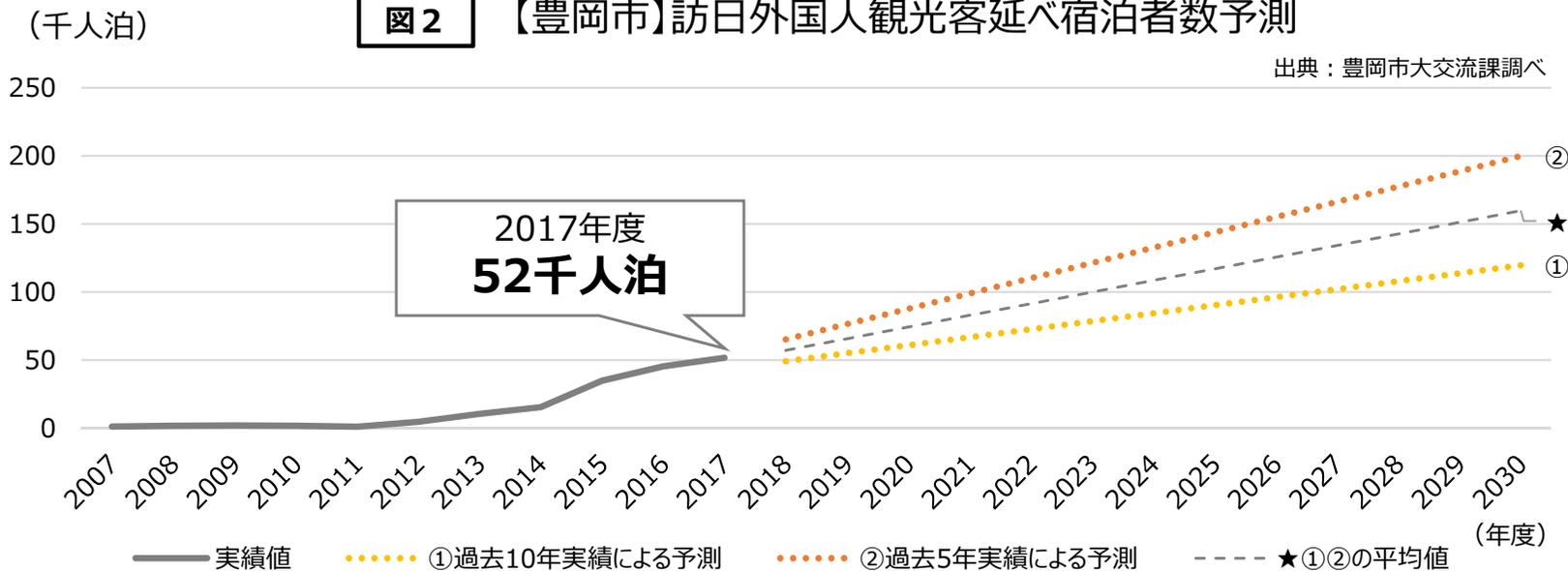


② 2030年度
230百万人泊
〔2017年度対比〕
2.8倍

★ 2030年度
192百万人泊
〔2017年度対比〕
2.4倍

① 2030年度
155百万人泊
〔2017年度対比〕
1.9倍

【豊岡市】訪日外国人観光客延べ宿泊者数予測



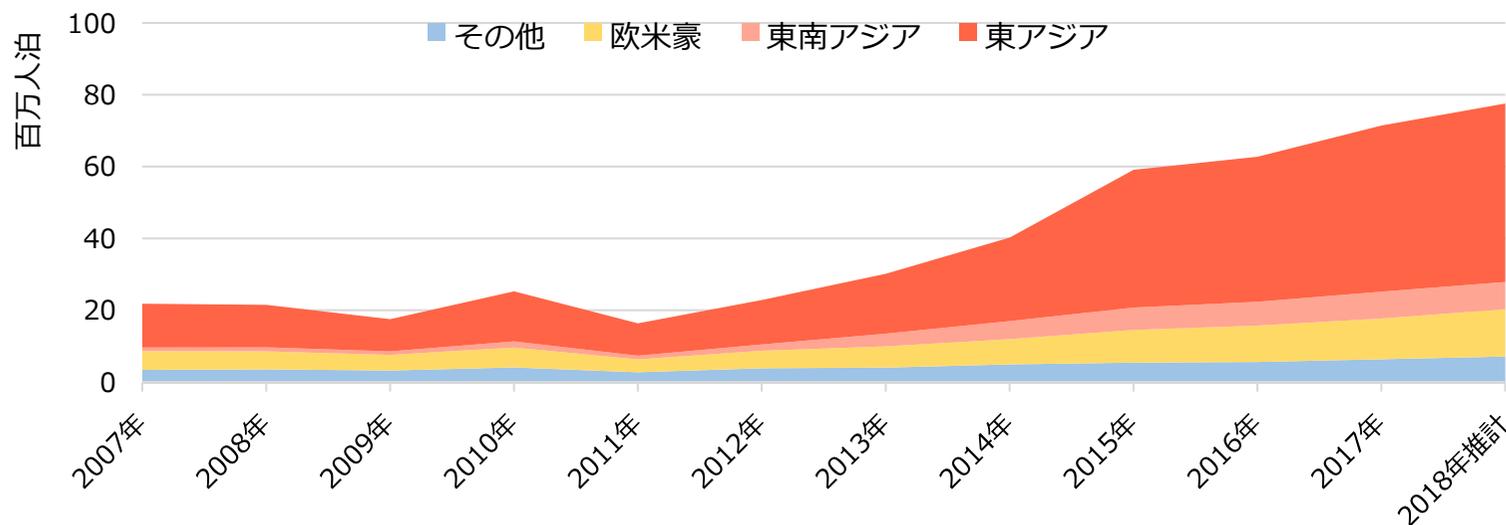
予測A（上位）
② 2030年度
200千人泊
〔2017年度対比〕
3.9倍

★ 2030年度
160千人泊
〔2017年度対比〕
3.1倍

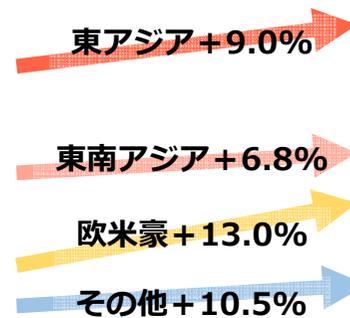
予測B（下位）
① 2030年度
120千人泊
〔2017年度対比〕
2.3倍

- 豊岡市は欧米豪地域からの誘客に注力しているためシェアが高くなっているものの平均成長率は+10.8%と、日本全体の+13.0%に比べると伸びが弱い。
 - 全国的には欧米豪よりも東アジアの数が圧倒的に多い。豊岡市は東南アジアの誘客が伸びているものの、近年、東アジアの取り込みが鈍化している。
- ⇒ **欧米豪のほか、東アジアや東南アジアからの誘客にも注力することにより訪日外国人観光客延べ宿泊者数を増やせる余地がある。**

【全国】 出身国エリアごとの訪日外国人観光客延べ宿泊者数の推移

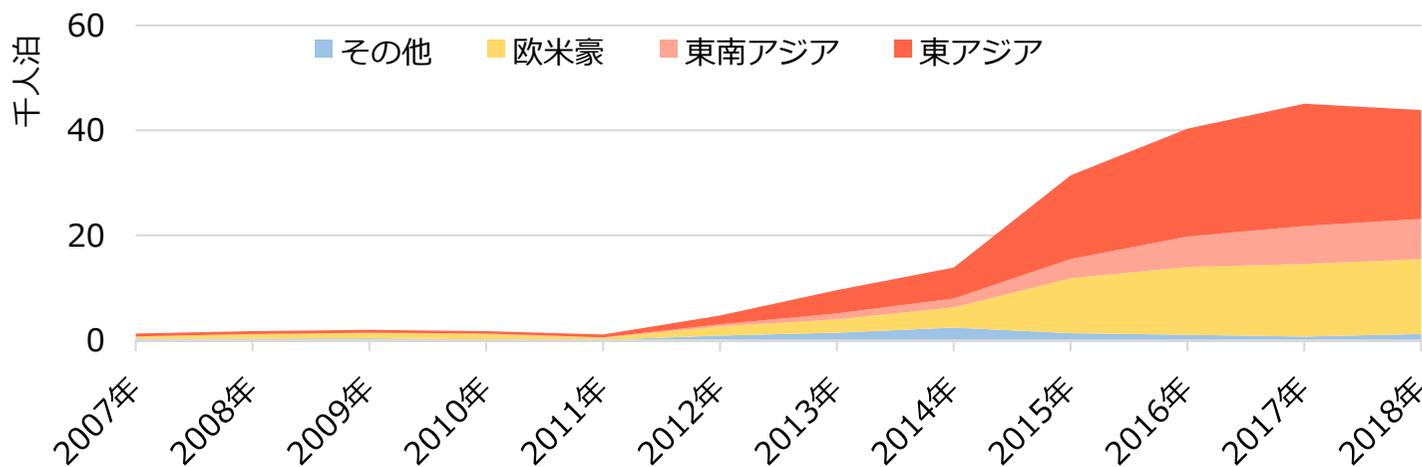


3年平均成長率

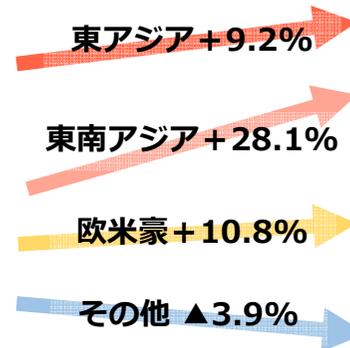


出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」より国籍別に延べ宿泊者数の合計を算出して作成

【城崎地域】 出身国エリアごとの訪日外国人観光客延べ宿泊者数の推移



3年平均成長率

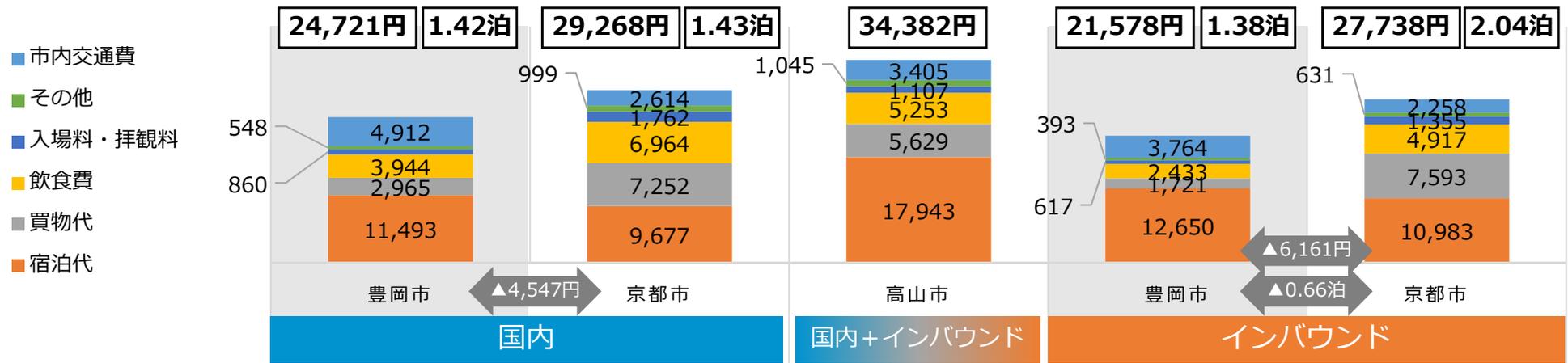


出典：豊岡市大交流課調べ

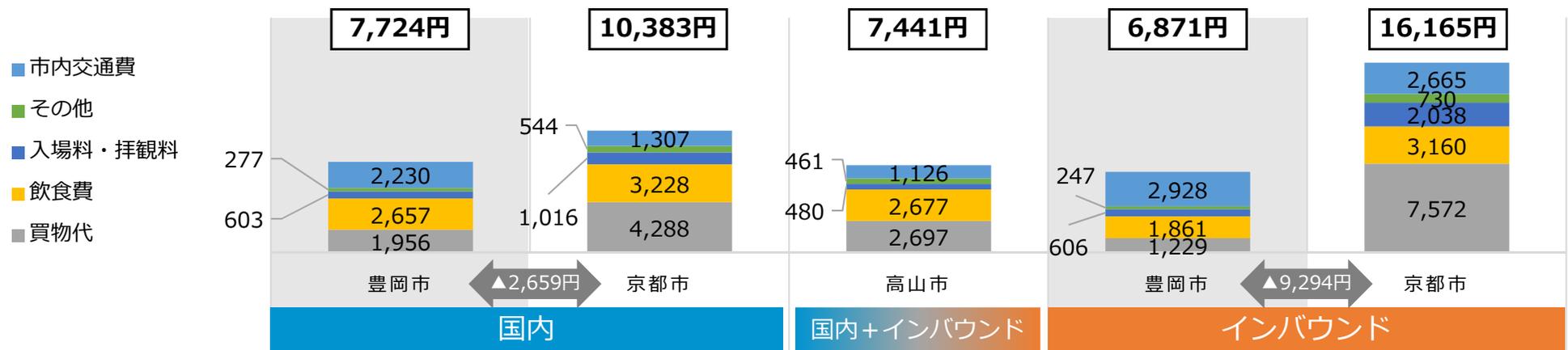
- 豊岡市が取り組みの参考にしてている京都市、高山市と比較すると、豊岡市の平均消費額単価は低い。
- 特に、買物代や飲食費の差が大きく、豊岡市にはまだ単価を上げる余地があると考えられる。

宿泊観光客消費額単価比較（円/人泊）

※豊岡市と京都市は平均泊数も併記



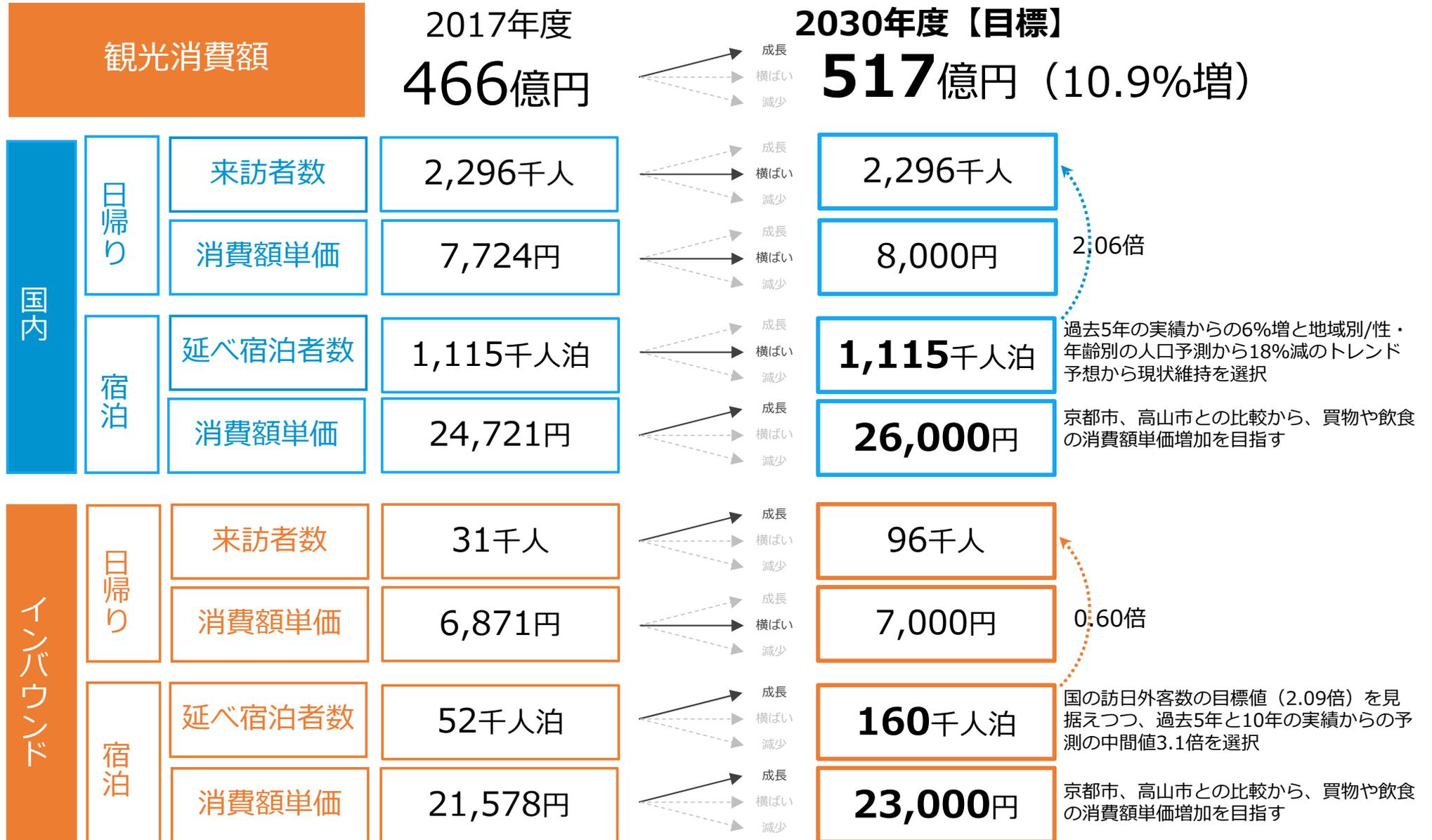
日帰り観光客消費額単価比較（円/人）

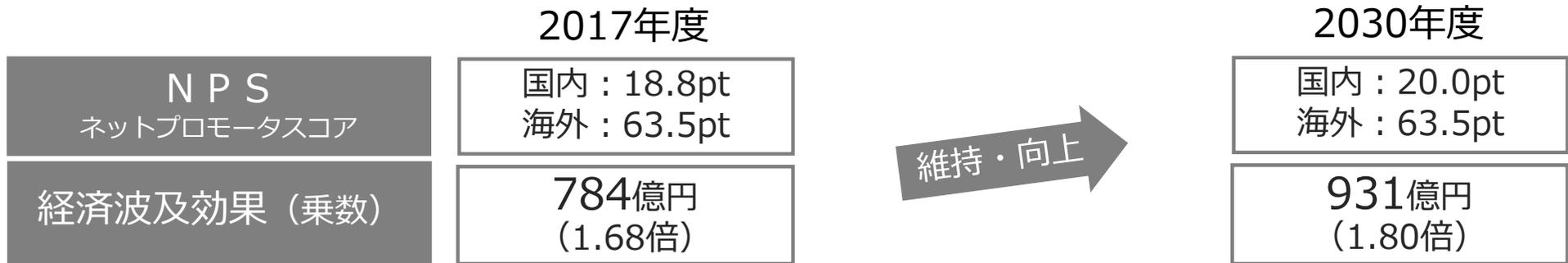


出典：京都市「京都観光総合調査（2017年）」より作成。京都市の単価は実人数ベースで算出されているため、平均宿泊日数で割ることで一人1泊あたりの平均単価に換算。
 出典：高山市「観光統計（2017年）」「観光の経済波及効果推計実施報告書（2017年）」より作成。

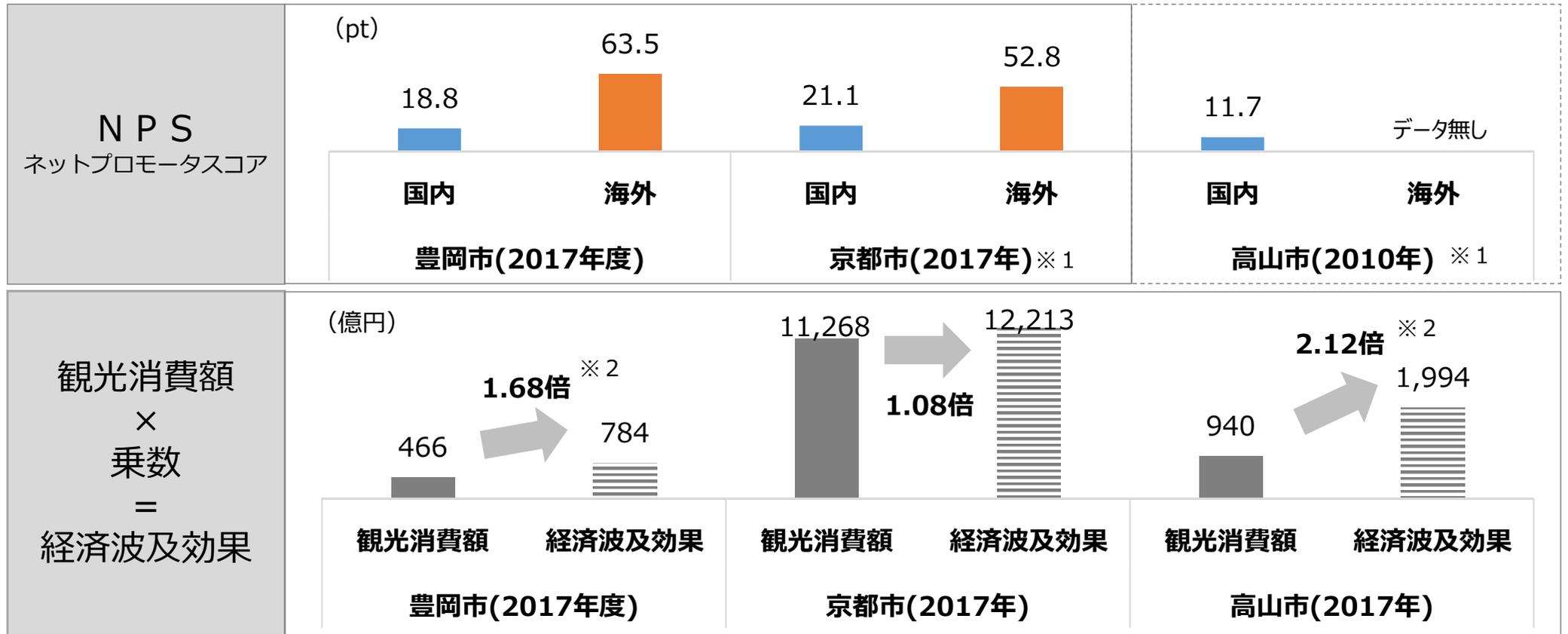
基本的な考え方

国内延べ宿泊者数は現状を維持しつつ、訪日外国人延べ宿泊者数の増加と消費額単価の向上により、観光消費額の増大を目指す。





(参考) 他の観光地との比較



※1：京都市及び高山市のNPSの計算には、7段階の照会意向アンケートを基に、「7（最高値）=推奨者、1～5=批判者」として算出。

※2：経済産業省「観光経済波及効果簡易推計システム」にて推計。なお、他地域との比較において、豊岡市は「宿泊サービス」「飲食サービス」「文化サービス/スポーツ・娯楽サービス」「小売」の4項目にて波及効果を推計しているため「旅客輸送サービス」等の波及効果が含まれていない点に留意。

1

観光に関するマクロ環境（世界情勢・国内情勢）

2

豊岡市の動態と観光産業の位置付け

3

大交流の推進戦略

4

大交流ビジョンの目標数値

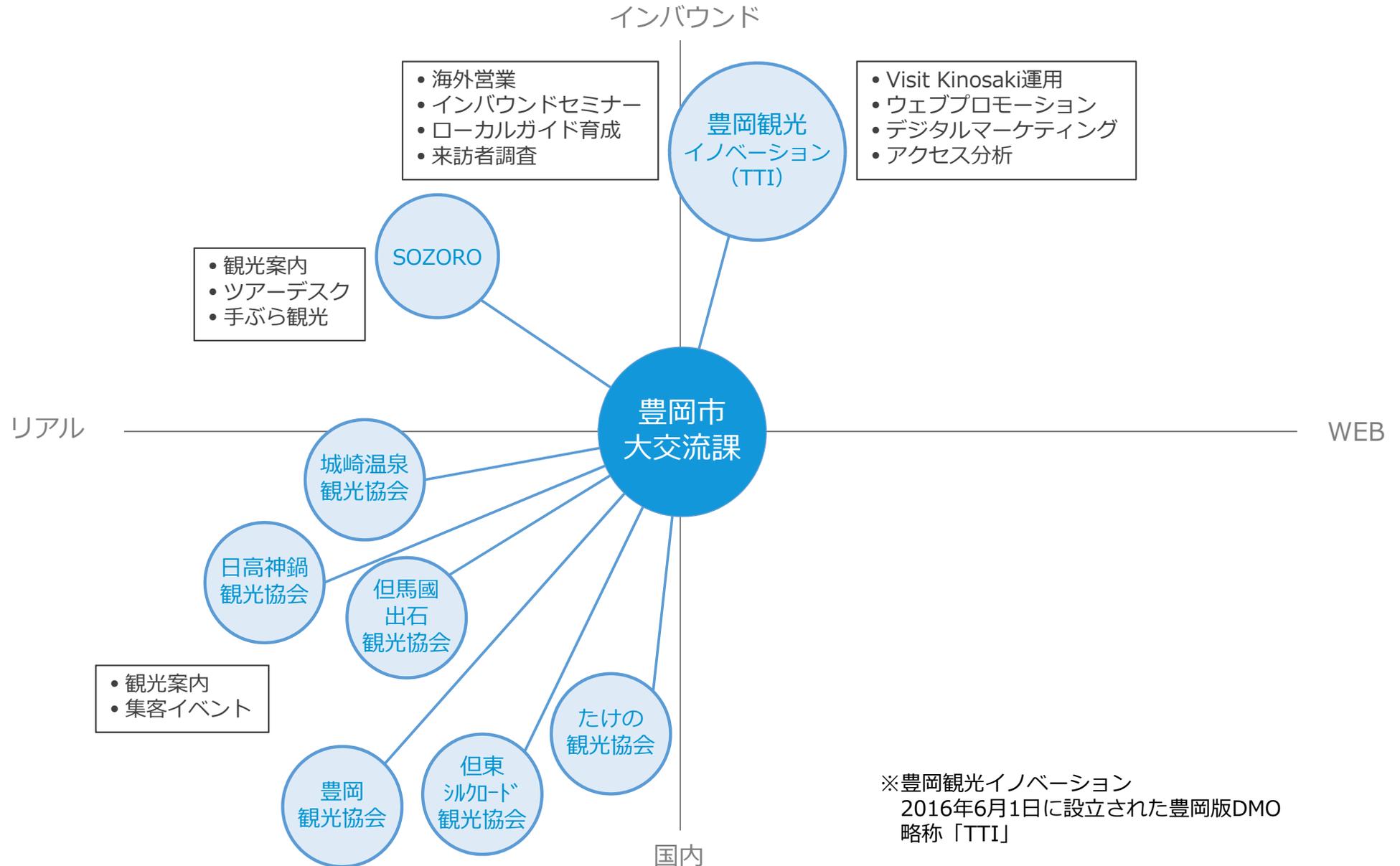
5

大交流ビジョンの実現に向けて

6

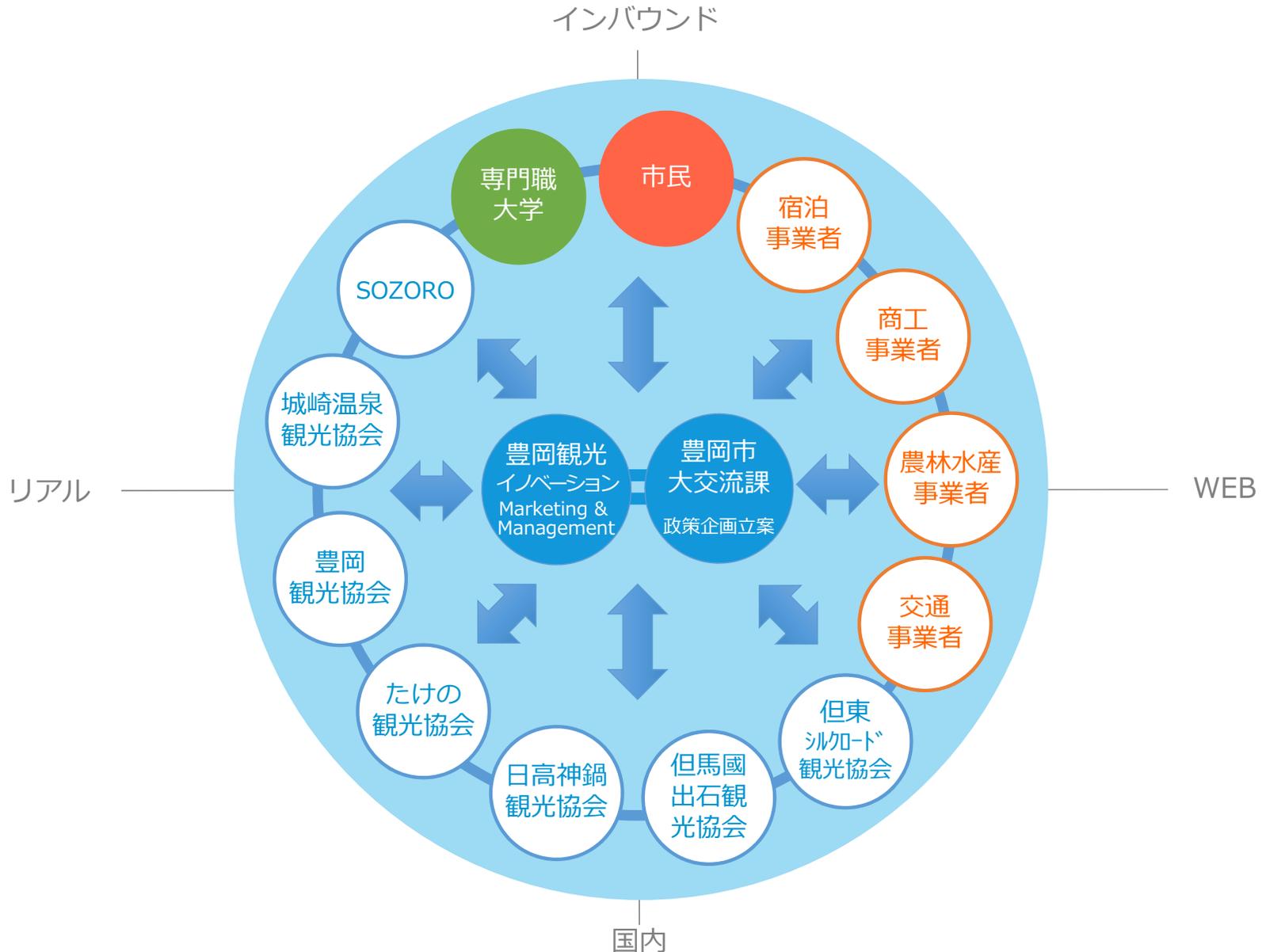
参考資料

- これまでの観光施策は、以下のような体制と活動領域（イメージ）で取り組んできた。



※豊岡観光イノベーション
2016年6月1日に設立された豊岡版DMO
略称「TTI」

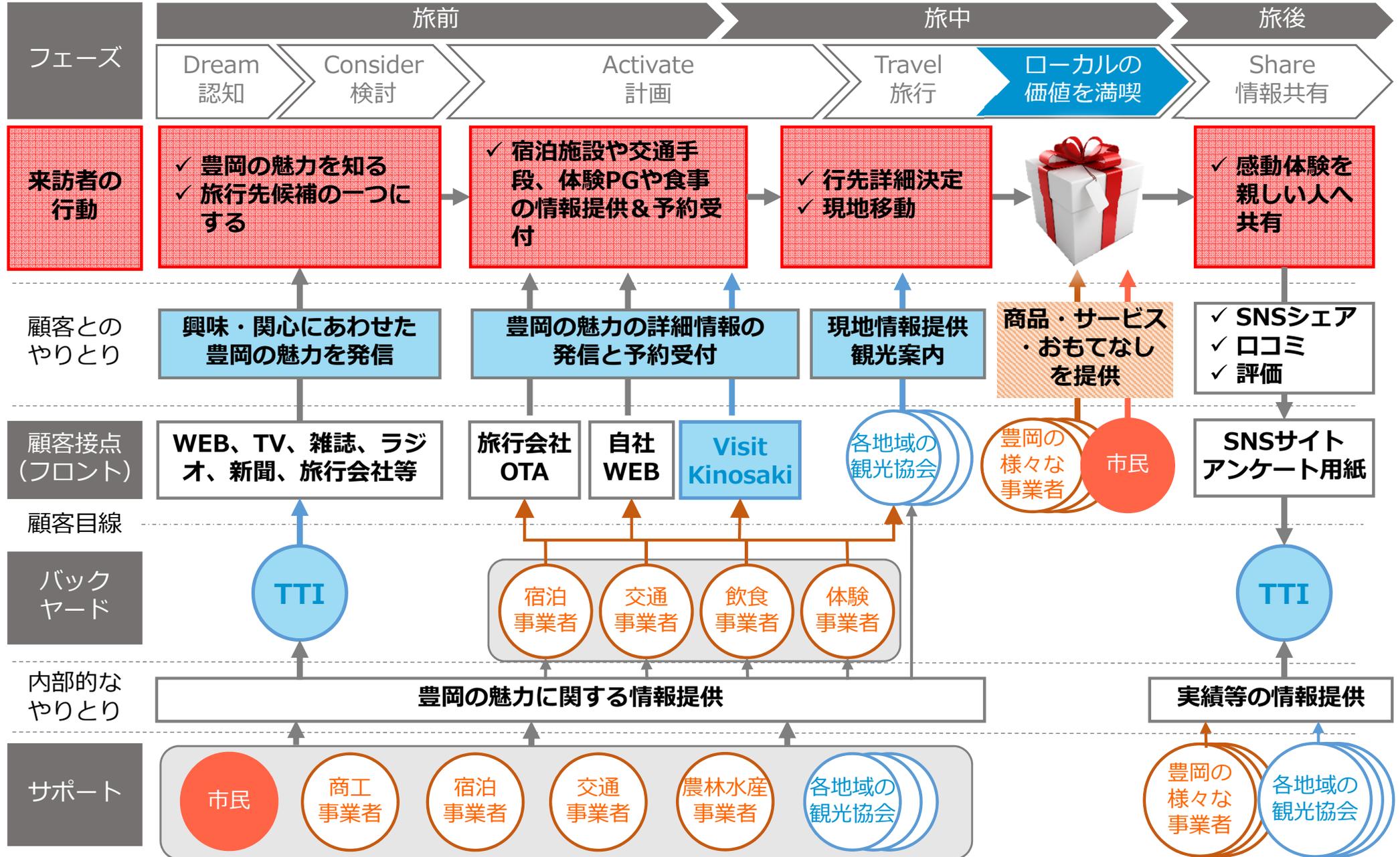
- これからは、TTIを中心に市民や幅広い産業、関係団体と相互に連携しながら広義の観光に取り組む必要がある。
- TTIと各観光協会の機能分担や将来的な組織のあり方についても検討する必要がある。



- TTIと豊岡市が調整役となって市民や民間事業者などの多様なアイデアやそれぞれの強みを引き出して、豊岡のローカルを来訪者に伝わる価値に変換する。



- 関係者が連携しながら、来訪者の行動フェーズにあわせて最適なタイミング・手段で情報を届け、豊岡のローカルの価値を提供する場まで誘う。

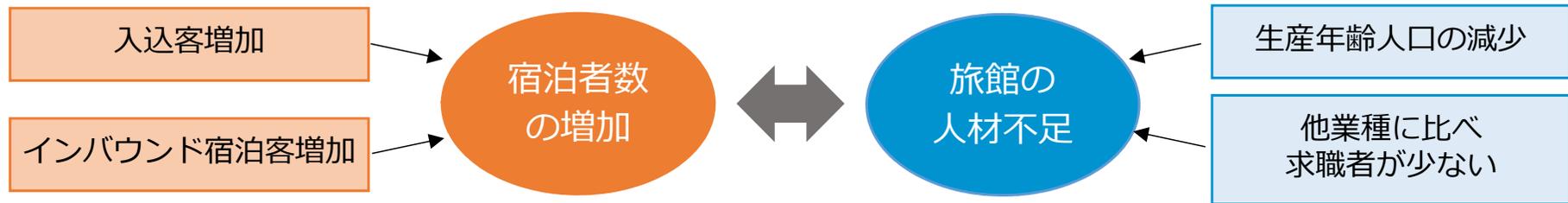


- TTIと豊岡市が調整役となって、提供実績に基づくデータや市民、民間事業者などのアイデアを基に、更なる価値の向上策を検討し、次につなげる。

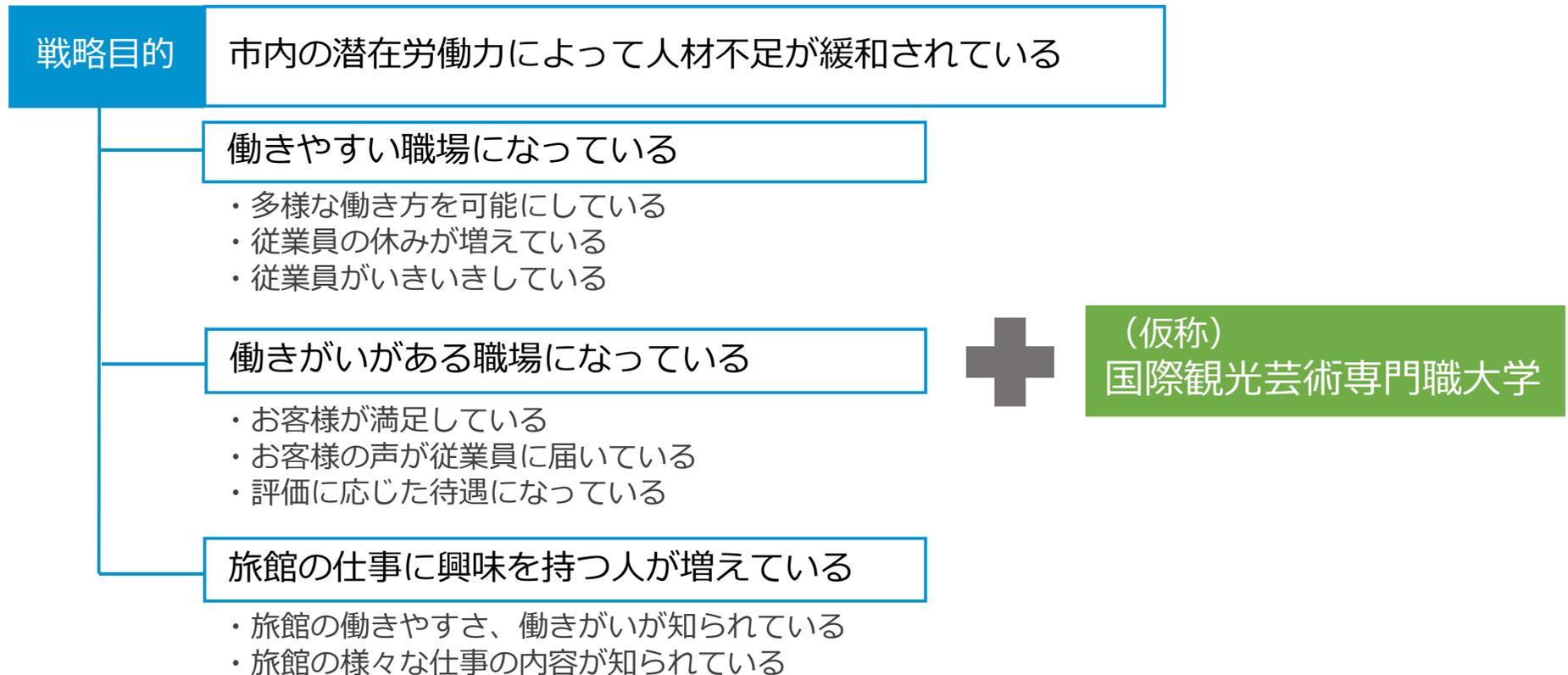


テーマ	インバウンド誘客	コウノトリツーリズムを生かしたMICE	
ターゲット	<p>欧米豪の 個人旅行者</p> 	<p>生物・環境 保護学会 + 企業のCSR 担当</p> 	
提供価値	ローカルを活用した体験プログラム (食+交通+アクティビティ等)	会議の場所/宿泊施設/生物・環境保護に関連した食や体験(湿地保全活動)/活動後の温泉	
連携主体			
提供手段	旅前	 <p>WEBや旅行博、空港や駅等におけるプロモーション</p>	 <p>学会や展示会、旅行代理店の法人営業部隊等における営業活動</p>
	旅中	 <p>豊岡での体験プログラム予約受付</p>	 <p>参加者の分宿の調整や宿～会場～体験PG等の移動手段調整での連携</p>
		 <p>ローカルを活用した体験プログラムの提供</p>	 <p>生物・環境保護に関連した食や体験(湿地保全活動)の提供</p>

- 観光産業における人材不足を解消するため、「豊岡市潜在労働力活用戦略（H29.11策定）」を実行する。
- 2021年開学予定の県立専門職大学と連携する。



豊岡市潜在労働力活用戦略（抜粋）



- 目標達成のためには、従来の取組みに加えて新たなアクションが必要であり、新たな投資が不可欠



従来の取組み

対象市場	基盤活動	城崎温泉を中心とした誘客
	国内	関西
	インバウンド	欧米豪の個人客

+

+

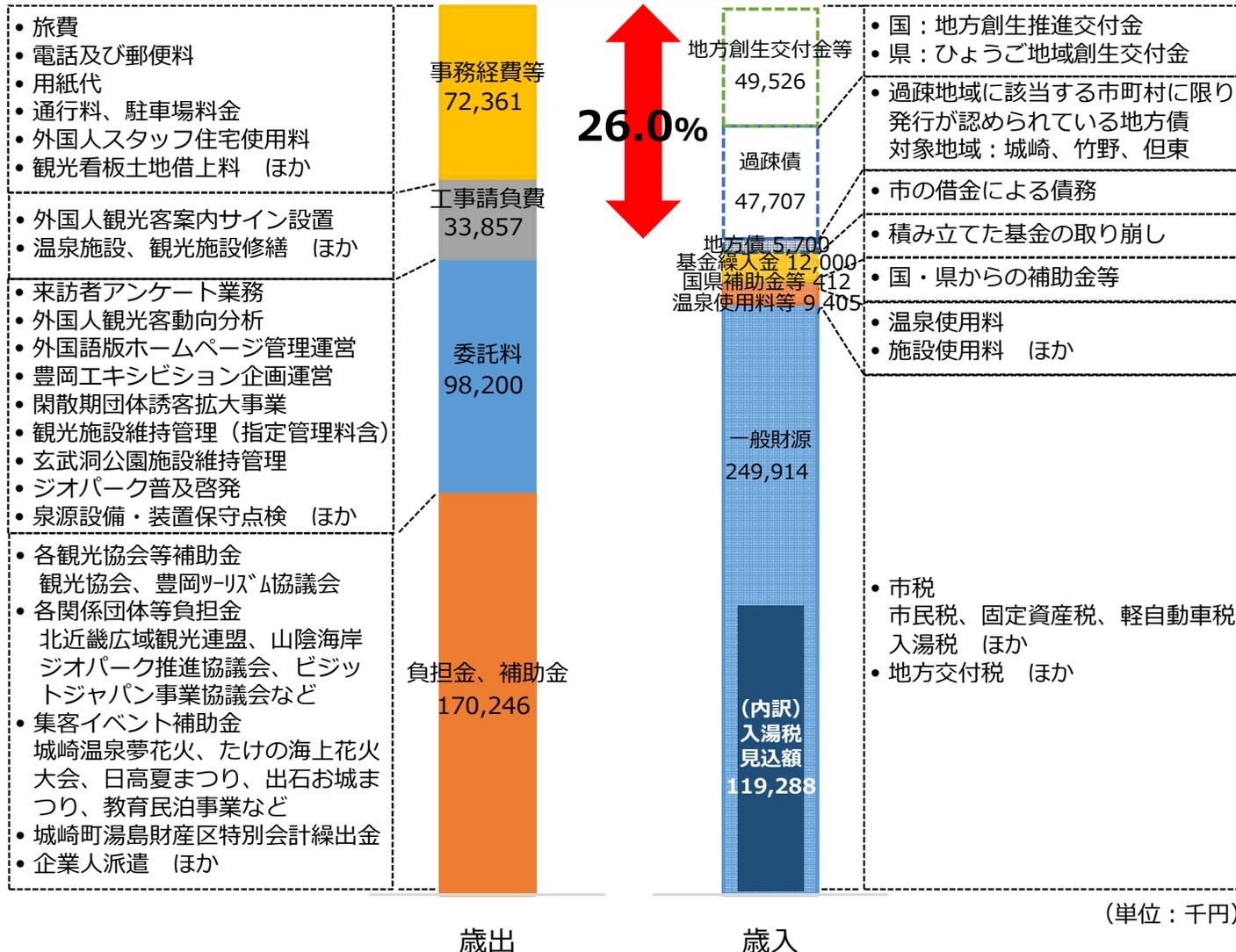
+

新たなアクション

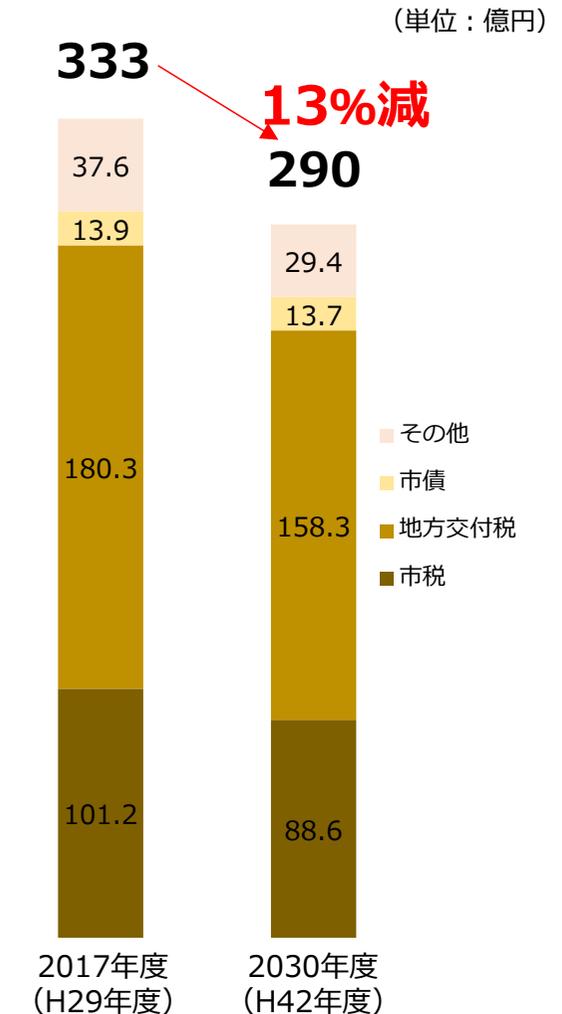
温泉に加え、新たな魅力を開発
首都圏等にマーケットを拡大
東アジア等にマーケットを拡大

- 2018年度の観光関連事業費のうち約3分の1は国や県からの交付金等を活用。今後、廃止・縮小・見直しが予想される。
- さらに、2030年度までに豊岡市の歳入総額（一般財源ベース）は約13%（約43億円）減少する見通し。
- 豊岡市は観光振興財源として入湯税を課税している。

豊岡市の2018年度（H30年度）観光関連事業費（3.75億円）の内訳



豊岡市歳入（一般財源）の見通し

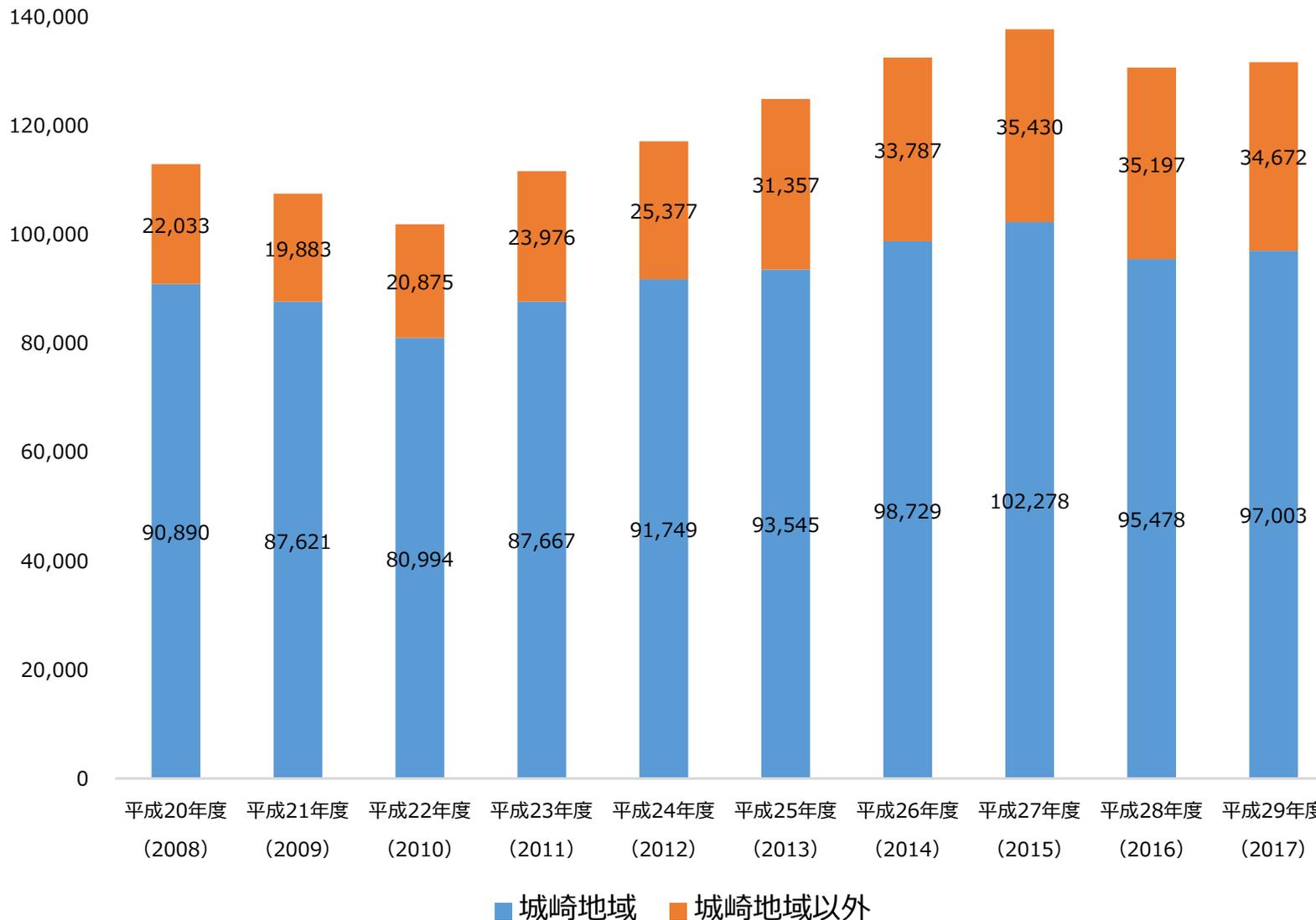


出典：豊岡市予算（当初予算ベース）：大交流課所管分（城崎国際アートセンター及び観光文化戦略室関係予算除く）と各振興局観光関連事業費（振興局プロジェクト含む）、城崎町湯島財産区特別会計への繰出金（城崎温泉課）」から算出

出典）豊岡市長期財政見通し「一般財源における歳入の見通し（H30.8）」から算出
2017年度：財政調整基金からの繰入金（70億円）除く

- 豊岡市における入湯税収入は微増傾向にあり、2017年度は約1億3,000万円である。
- 2017年度の入湯税収入の地域別比率は、城崎地域が市全体の約73.7%を占めている。

(単位：千円)

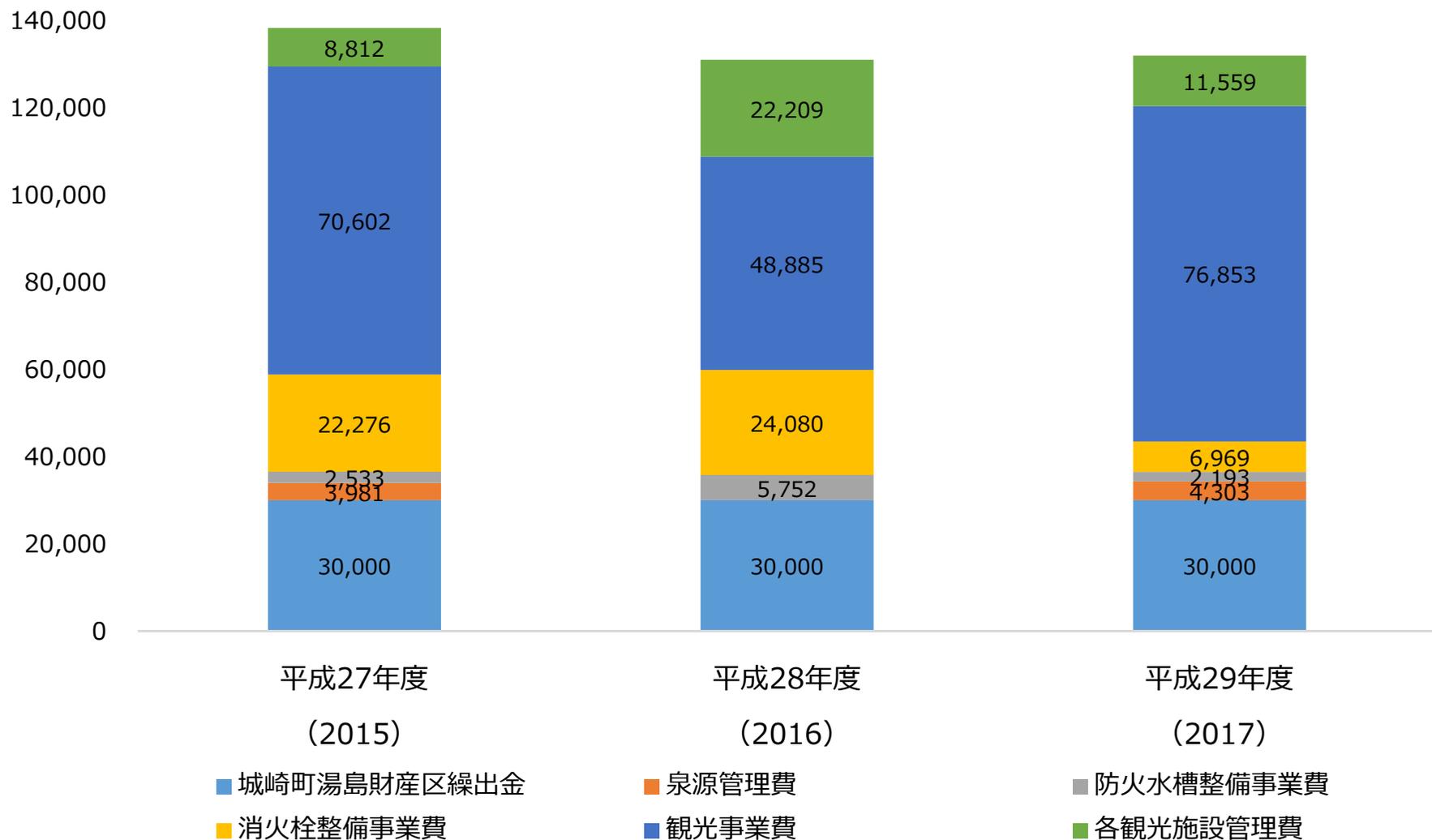


✓ 入湯税とは
 ・ 環境衛生施設、鉱泉源保護管理施設や消防施設などの整備、観光振興に要する費用などに使用するための法定目的税
 ✓ 課税の判断
 ・ 宿泊者は1泊につき、日帰り客は1日につき課税
 ✓ 税額
 1人1日につき150円
 (学生：50円)

入湯税の用途状況（充当先）

- 2017年度の入湯税収入の約67%を観光事業並びに観光施設管理に充当している。
- 入湯税収入のうち、毎年30,000千円を城崎町湯島財産区に繰り出している。

(単位：千円)



観光振興の安定的な財源確保のため、様々な地域において入湯税や宿泊税などが導入されている。

賦課対象	種別	名称	特徴	主な事例と税収額	
来訪者	法定税	入湯税 (超過課税)	<p>超過課税として導入し、引き上げた分を「観光振興、鉱泉源保護、消防施設、環境衛生施設等の整備」に充当</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 釧路市：一般の宿泊客1人1泊の入湯税を150円から250円に引き上げ。平成27年4月1日から税率変更。 ・ 美作市：旅館組合に入湯税収入の50%を還付（うち、15%は観光協会財源として充当）、入湯税は200円 ・ 鳥羽市：観光振興50%、鉱泉源保護30%、消防施策等10%、環境衛生施設10%、入湯税は150円 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 釧路市 1.6億円（平成29年度決算） ※引き上げ効果は6,275万円 ・ 美作市 4,200万円（平成29年度決算） ※従来、入湯税150円、入場料50円だったものを入湯税として200円徴収 ・ 鳥羽市 1.7億円（平成29年度決算） ※使途比率の合意の基、平成19年4月から徴収開始 	
	法定外税	法定外普通税	別荘等所有税	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昭和51年より実施。650円/㎡ ・ 別荘等の所有者が対象（旅館業法の許可を受けていない寮、保養所も対象） 	静岡県熱海市 5億円
			歴史と文化の環境税	<ul style="list-style-type: none"> ・ 有料駐車場の利用者に対し徴収、全額基金化 ・ 二輪車50円、乗用車100円、マイクロバス300円、大型バス500円 ・ 基金運営委員会による予算、決算、提案 	福岡県 太宰府市 0.8億円
		法定外目的税	宿泊税	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東京都：ホテル、旅館が対象であり、宿泊料金が1万円未満は免除 ・ 大阪府：ホテル、旅館、簡易宿所が対象であり、宿泊料金が1万円未満は免除 ・ 京都府：ホテル、旅館、簡易宿所、民泊を含む全宿泊施設が対象であり、宿泊者全員が対象 	東京都 21億円 大阪府 7.6億円 京都市 45.6億円（通年見通し。初年度は19億円）
			環境協力税	<ul style="list-style-type: none"> ・ 沖縄県：1回の入域につき100円（障害者、高校生以下は免除）、環境の美化、環境の保全及び観光施設の維持整備に充当 ・ 岐阜県（乗鞍環境保全税）：乗鞍鶴ヶ池駐車場の利用者（運転手）に対し徴収、乗鞍地域の自然環境の保全に係る施策に充当 	沖縄県（伊是名・伊平屋・渡嘉敷・座間三） 岐阜県（乗鞍環境保全） 0.1億円
			遊漁税	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全国初の法定外目的税。環境の美化及び施設の整備費用として充当。 ・ 15,000円未満100円、15,000円以上200円 を徴収（1万円以下は免除） 	山梨県富士河口湖町 0.1億円（H27年度）
	事業者	分担金	地域再生エリアマネジメント負担金制度（H30年6月施行）		

近年の他自治体の税概要は以下のとおり

税	自治体名	施行日	賦課対象	課税対象行為	税率・適用条件	税収見込み	用途	課税免除条件
宿泊税	京都府 京都市	平成30年 (2018年) 10月1日	宿泊者 (ホテル、旅館、簡易宿所のほか、違法民泊等も含む)	20,000円未満	200円	45.6億円	<ul style="list-style-type: none"> 居住者にも来訪者にも京都の品格や魅力を実感できる取組の推進 入洛客の増加など、観光を取り巻く情勢の変化に対する受入環境の整備 京都の魅力の国内外への情報発信の強化 	修学旅行生等
		20,000円以上 50,000円未満		500円				
		50,000円以上		1,000円				
入湯税	石川県 金沢市	平成31年 (2019年) 4月1日予定	宿泊者 (ホテル、旅館、簡易宿所のほか、民泊等も含む)	20,000円未満	200円	7.2億	<ul style="list-style-type: none"> まちの個性に磨きをかける歴史・伝統・文化の振興 観光客の受入れ環境の充実 市民生活と調和した持続可能な観光の振興 	特になし
		20,000円以上		500円				
入湯税	北海道 倶知安町	平成31年 (2019年) 11月1日予定	宿泊者 (ホテル、旅館、簡易宿所のほか、民泊等も含む)	宿泊料金の2%		2.6億～ 3.1億円	<ul style="list-style-type: none"> 世界有数の山岳リゾートとしての発展を目指し、地域魅力向上・観光振興を図る施策に充当 	修学旅行生等
	※定率制導入は全国初							
入湯税	大分県 別府市	平成31年 (2019年) 4月1日予定	鉱泉浴場への入湯客 (1人1日につき宿泊料金及び飲食料金が右記の者)	1,500円以上 6,000円以下	現行据置 (50～150円)	+1.5億円	<ul style="list-style-type: none"> 基幹産業である観光産業を推進し、将来に向けての市民生活の維持・安定を図る 行政と観光事業者等の観光分野に明るいメンバーにより観光施策に関する有効活用について協議し決定する予定 基金での管理 	<ul style="list-style-type: none"> 年齢12歳未満 共同浴場又は一般公衆浴場入浴者 修学旅行生 その他市長が特に必要があると認めたる者
				6,001円以上 50,000円以下	250円 (100円引上げ)			
				50,001円以上	500円 (350円引上げ)			

- ✓ 地域経済をけん引する観光産業の活性化のためには、戦略的、持続的な投資を行う必要がある
- ✓ 国からの交付金を含めた歳入減などに伴い、観光関係事業費に充てられる予算は今後減少していく見込みである



観光振興財源のあり方について検討が必要



大交流ビジョン

- 豊岡市大交流ビジョンの策定と共有。
- 解決すべき課題と対応策を設定。
- 目標と推進体制の検討。

解決すべき課題

Community	<ul style="list-style-type: none"> ① 市民が豊岡観光を楽しめていない ② 市民全員がおもてなしに取り組む土壌ができていない ③ 市民が観光による豊かさを感じられていない
Industry	<ul style="list-style-type: none"> ① 幅広い産業が観光に関わっていない ② 地消地産が進まない、ローカルを活用できていない ③ 観光産業の働き手の確保が困難となっている
Visitor	<ul style="list-style-type: none"> ① 豊岡ブランドが知られていない ② 市内の観光地が点在し相互に連携できていないため、回遊できていない ③ 豊岡のローカルの魅力を満喫できていない

アクションプランの策定

アクションプラン

- 2019年度に大交流ビジョンに基づき具体的な事業を検討。アクションプランを策定。
- 2020年度からアクションプランに基づく事業を展開。実施状況を踏まえて2024年度にプランを見直し、2030年度のビジョン実現を目指す。



目指すべき姿



豊岡市の大交流ビジョンの実現に向けて迅速なアクションを実行するために、豊岡市大交流ビジョン推進事業として、以下の2つのテーマを中心に検討を行う

- ✓ **大交流ビジョンや大交流モデル、目標値を踏まえ、具体的な事業内容や推進体制及び実行計画を定めた「前期アクションプラン」の策定**
- ✓ **大交流ビジョンを実現するための観光振興財源のあり方について検討**

1

観光に関するマクロ環境（世界情勢・国内情勢）

2

豊岡市の動態と観光産業の位置付け

3

大交流の推進戦略

4

大交流ビジョンの目標数値

5

大交流ビジョンの実現に向けて

6

参考資料

- 豊岡市独自の観光権を定めることで、複数の課題の解決につながるのではないか

日本国憲法 第二十五条

1. すべて国民は、**健康**で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。
2. 国は、すべての生活部面について、社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない。



例えば、健康保険制度等の整備



国民が医療機関を利用しやすくなる



- ✓ 多くの国民が健康になる
- ✓ 医者への地位が向上

豊岡市 観光権 (案)

- すべて豊岡市民は、豊岡市内外で観光を楽しむ権利（観光を通じて異なる文化、異なる価値観に触れ、自らを内省する時間を持つ権利）を有する。
- 豊岡市は、人種や性別、所得の高低、住んでいる地域などに関係なく、豊岡市民が有する観光を楽しむ権利の保障に努めなければならない



例えば、すべての豊岡市民が豊岡市内での観光を楽しむ制度を検討



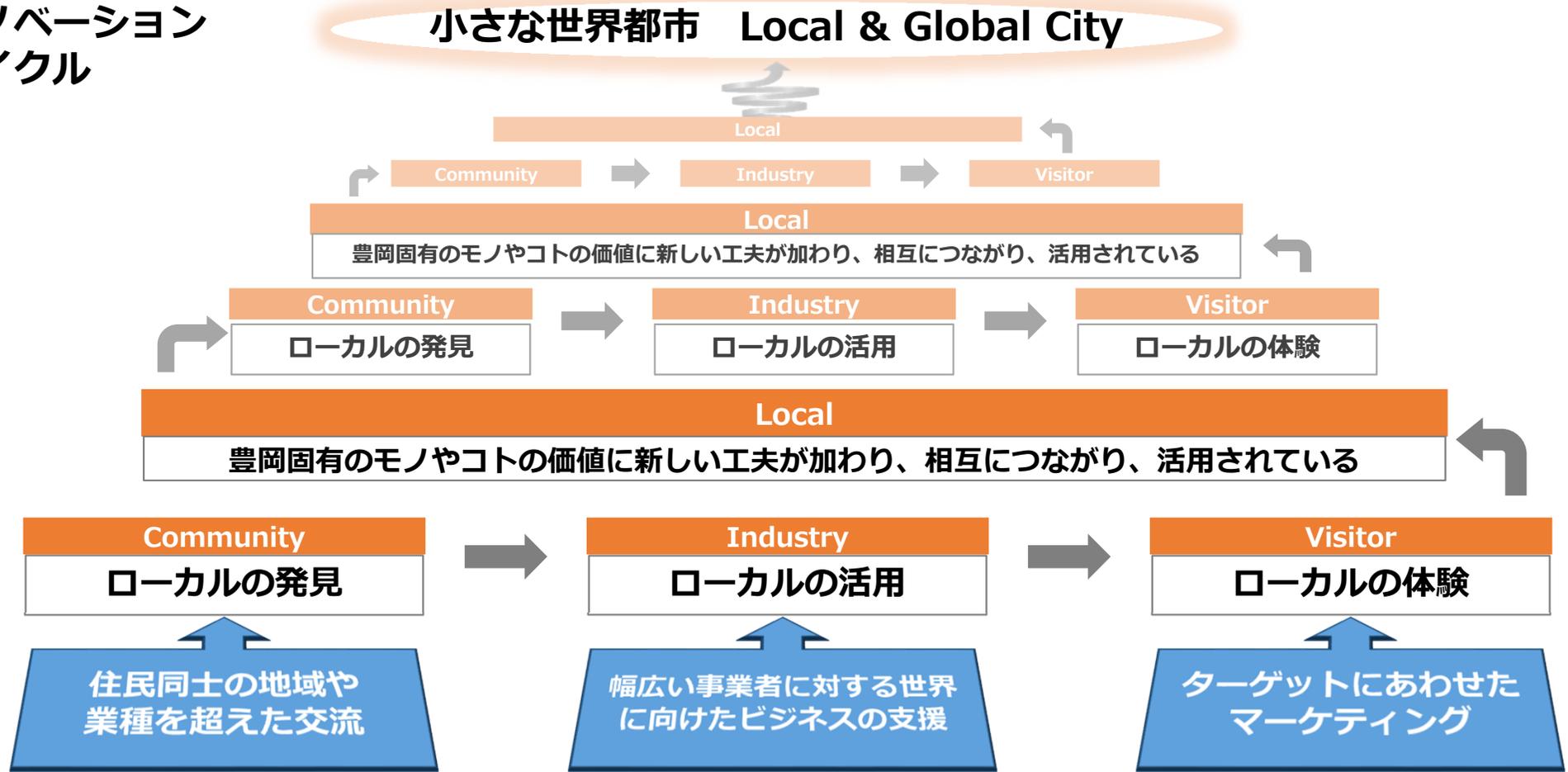
豊岡市内のそれぞれの地域が、お互いの魅力を知る



- ✓ 市民によるローカルの発見
- ✓ 観光振興により市民が豊かになる

- イノベーションサイクルでローカルを磨き上げて、「小さな世界都市」を目指す

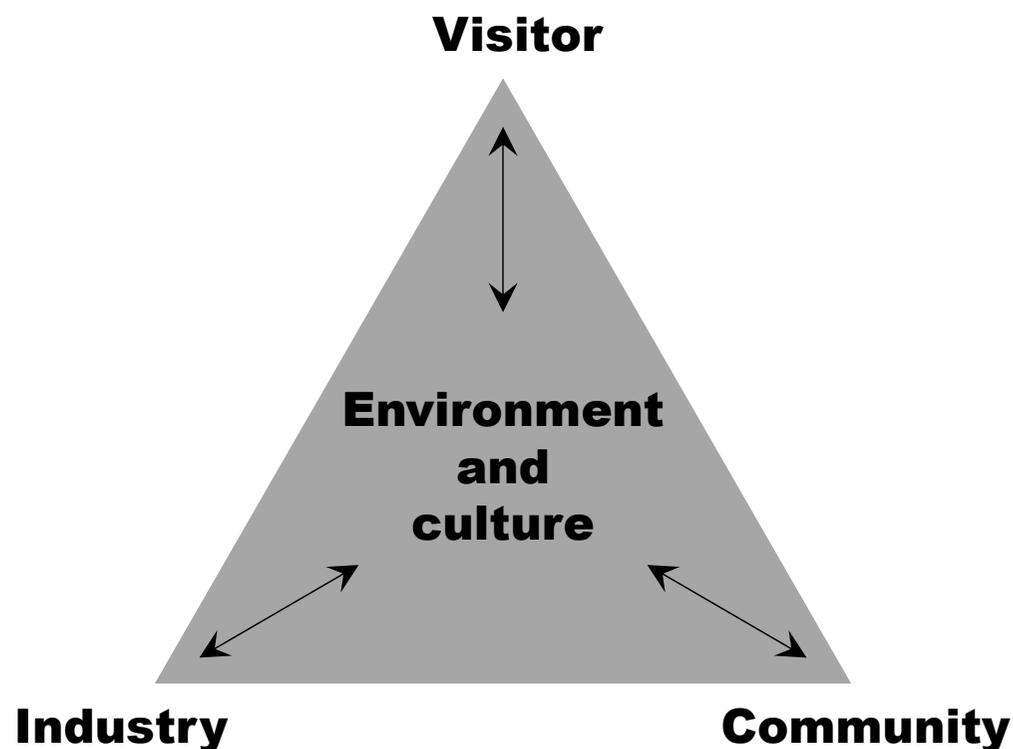
イノベーション サイクル



ブランドコンセプト (案) 「独自の物語をつむぐまち」

- コウノトリの復活ストーリー
- 城崎や出石の再生ストーリー
- 演劇や歌舞伎等のショービジネス
- 世界に共感される物語

- “English Tourist Board and Tourism Management Institute”が“Destination Management Handbook”に記したモデルで、着地型観光のマネジメントについて観光客、観光産業、地域社会、環境と文化の相互作用を表したフレームワーク。
- 環境と文化は、自然資源や作られた資源などから構成される観光産業の基盤として位置づけられる。
- 着地型観光マネジメントでは、このモデルを用いてパートナーシップづくりや着地型観光の連携を考え、計画や施策が4つの観点でバランスがとれたものか、持続可能かなどを確認する。



	開催日時	検討内容
第1回	7月24日（火） 13時00分～15時00分	<ul style="list-style-type: none"> ・委員紹介 ・策定委員会の役割、スケジュール等について ・委員長及び職務代理者選出 ・豊岡市大交流（観光）ビジョンの策定について ビジョン策定への思い（豊岡市長） 本市における観光の課題及び本ビジョンに期待すること（策定委員） ・意見交換
第2回	9月3日（月） 13時30分～15時30分	<ul style="list-style-type: none"> ・委員紹介 ・世界・国内の観光情勢について ・本市における観光等の状況について ・前回の意見集約及び本日の議論内容について ・「小さな世界都市」の実現に向けた10年後のありたい姿について
第3回	10月22日（月） 15時30分～17時00分	<ul style="list-style-type: none"> ・委員紹介 ・前回までの主な議論の整理・集約について ・「小さな世界都市」の実現に向けた10年後のありたい姿について ・解決すべき課題について
第4回	11月16日（金） 15時30分～17時20分	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の議論の確認（解決すべき課題）について ・本日議論いただく内容（対応策の検討）について ・次回議論いただく内容（目標設定の考え方ほか）について
第5回	1月29日（火） 13時30分～15時30分	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の議論の確認（対応策案、取り組む大交流モデル）について ・本日議論いただく内容（目標設定の考え方ほか）について
第6回	2月25日（月）10時00分～	<ul style="list-style-type: none"> ・推進体制及び活動領域、目標設定、観光振興財源について ・豊岡市大交流（観光）ビジョン素案について
第7回	3月20日（水）15時30分～	<ul style="list-style-type: none"> ・豊岡市大交流（観光）ビジョン案について

敬称略

平田 オリザ	有限会社アゴラ企画
国枝 よしみ	大阪成蹊大学
山田 雄一	公益財団法人日本交通公社
倉成 英俊	株式会社電通
岡野 規子	楽天株式会社 コマースカンパニートラベル事業
田中 優子	株式会社リクルートライフスタイル じゃらんリサーチセンター
井垣 真紀	城崎温泉ステキ体験旅行社
樋口 正輝	アドバンス株式会社
昆野 彩	WILLER TRAINS株式会社（京都丹後鉄道）
西村 総一郎	株式会社西村屋
宮崎 裕紀	株式会社MotherEarth
渋谷 順子	さらそば甚兵衛
岡田 俊二	暮らしマラソン
植村 賢仁	兵庫県靴工業組合
青山 直也	ユメファーム
前野 文孝	豊岡市

オブザーバー	各観光協会
	各振興局地域振興課
	一般社団法人豊岡観光イノベーション

豊岡市

Toyooka City